

日本外傷データバンク報告 (2004-2005)

JAPAN TRAUMA DATA BANK REPORT 2004-2005

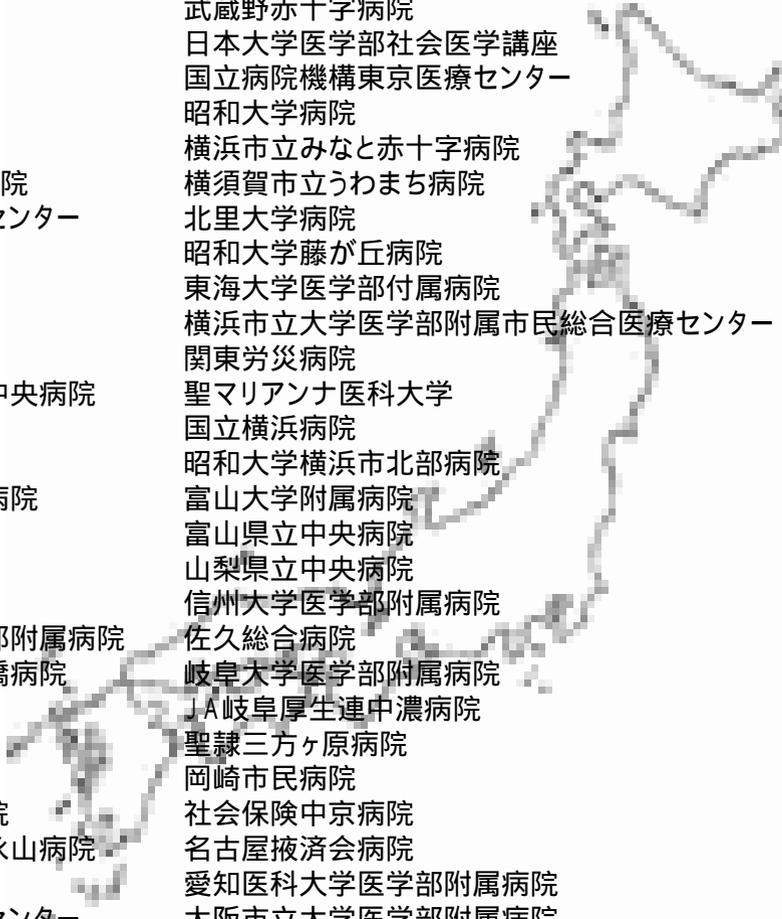
日本外傷学会 Trauma Registry検討委員会



日本救急医学会 診療の質評価指標に関する委員会



表1 JTDB参加施設名(全90施設 順不同)



札幌医科大学附属病院	東京女子医科大学附属第二病院	関西医科大学附属病院
日鋼記念病院	国立国際医療センター	大阪市立総合医療センター
市立札幌病院	帝京大学医学部附属病院	大阪大学医学部附属病院
八戸市立市民病院	武蔵野赤十字病院	岸和田徳州会病院
岩手県立久慈病院	日本大学医学部社会医学講座	近畿大学医学部附属病院
岩手医科大学	国立病院機構東京医療センター	大阪府立三島救命救急センター
会津中央病院	昭和大学病院	阪和記念病院
太田西ノ内病院	横浜市立みなと赤十字病院	大阪府立泉州救命救急センター
筑波メディカルセンター病院	横須賀市立うわまち病院	関西労災病院
埼玉医科大学総合医療センター	北里大学病院	公立村岡病院
防衛医科大学校病院	昭和大学藤が丘病院	公立豊岡病院
獨協医科大学越谷病院	東海大学医学部附属病院	兵庫県災害医療センター
川口市立医療センター	横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター	神戸大学医学部附属病院
さいたま赤十字病院	関東労災病院	奈良県立医科大学
国保直営総合病院君津中央病院	聖マリアンナ医科大学	奈良県立奈良病院
亀田総合病院	国立横浜病院	岡山大学医学部・歯学部附属病院
千葉県救急医療センター	昭和大学横浜市北部病院	中国労災病院
日本医科大学千葉北総病院	富山大学附属病院	県立広島病院
国保旭中央病院	富山県立中央病院	山口大学医学部附属病院
船橋市立医療センター	山梨県立中央病院	徳島県立三好病院
東京都立墨東病院	信州大学医学部附属病院	香川大学医学部附属病院
東京医科歯科大学医学部附属病院	佐久総合病院	雪ノ聖母会 聖マリア病院
日本大学医学部附属板橋病院	岐阜大学医学部附属病院	福岡大学病院
青梅市立総合病院	J・A岐阜厚生連中濃病院	済生会福岡総合病院
東京女子医科大学	聖隷三方ヶ原病院	小倉記念病院
駿河台日本大学病院	岡崎市民病院	北九州総合病院
杏林大学医学部附属病院	社会保険中京病院	佐賀県立病院好生館
日本医科大学附属多摩永山病院	名古屋掖済会病院	国立病院機構長崎医療センター
日本医科大学附属病院	愛知医科大学医学部附属病院	敬愛会中頭病院
国立病院機構災害医療センター	大阪市立大学医学部附属病院	浦添総合病院

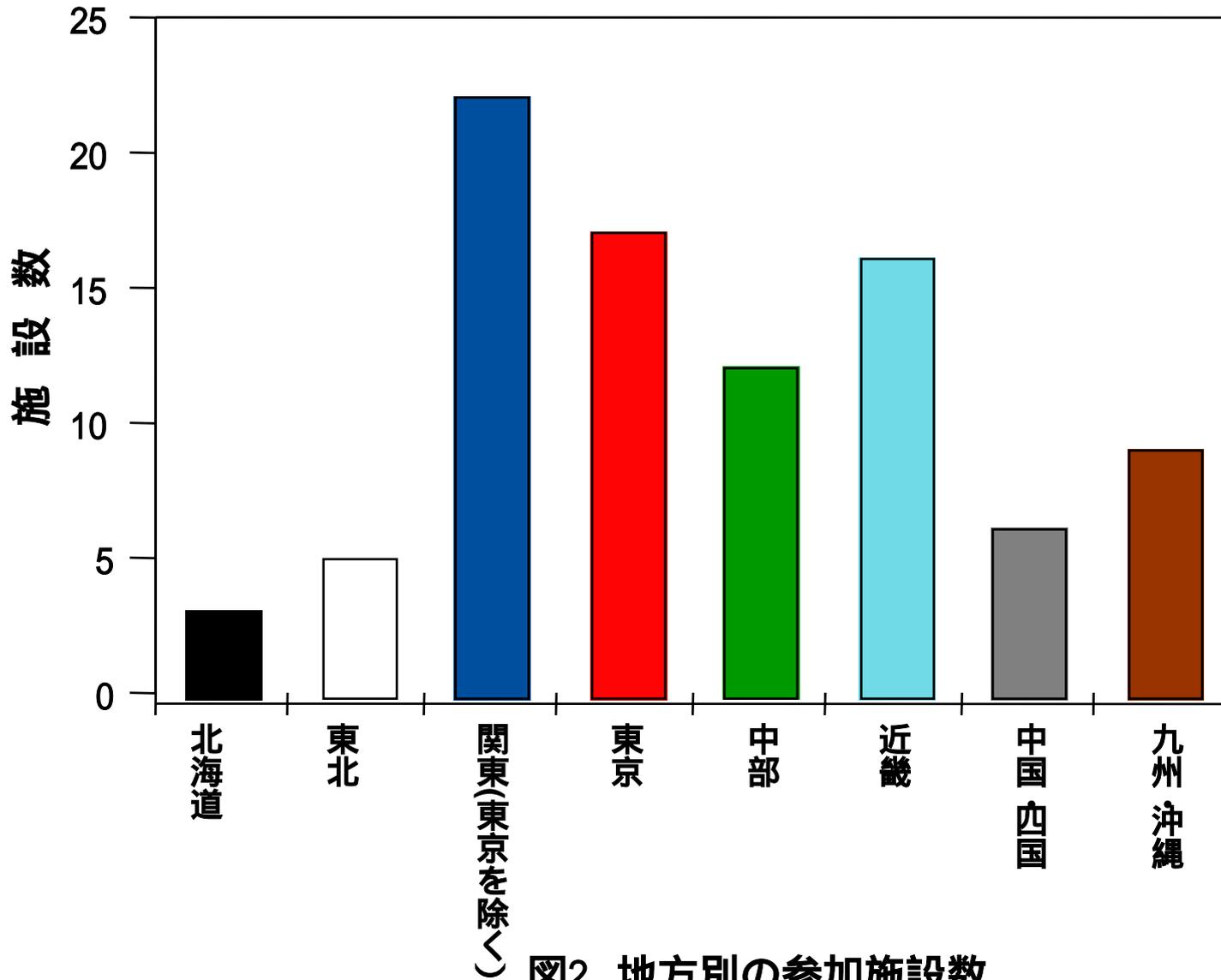
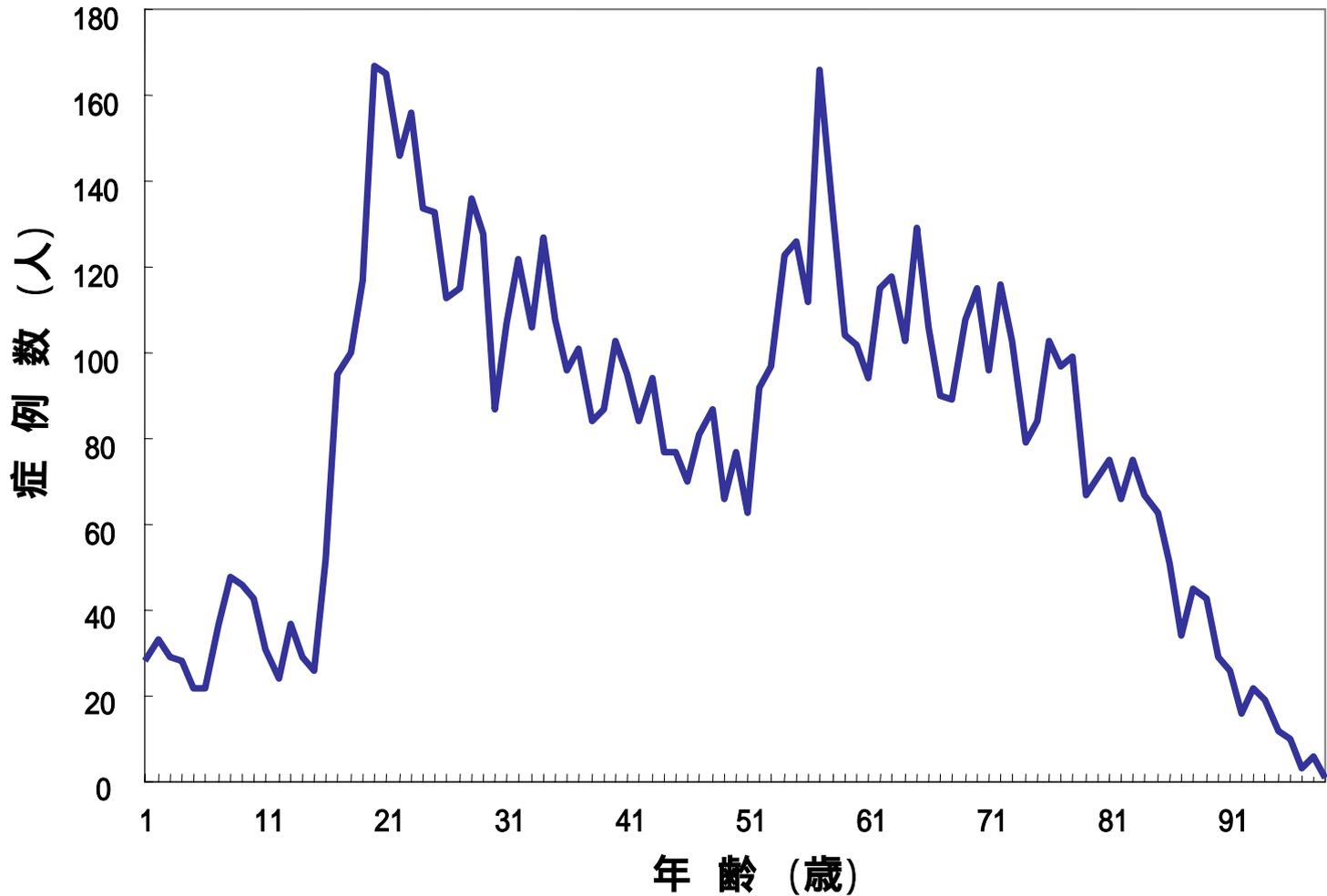


図2 地方別の参加施設数



20歳代と60歳代で二峰性の分布を示す。

図3 全症例年齢分布

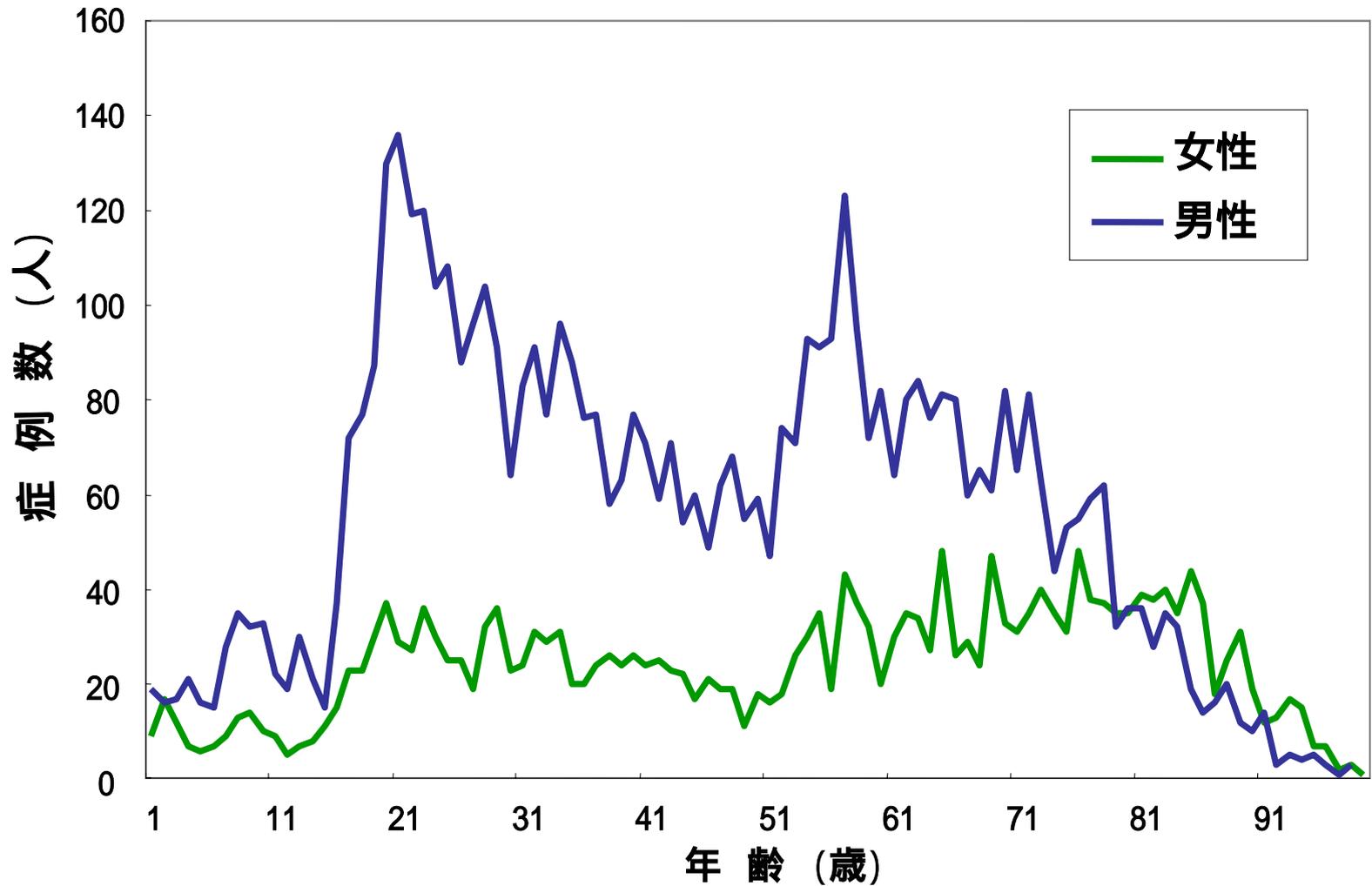


図4 性別年齢分布

男性は二峰性を示している。

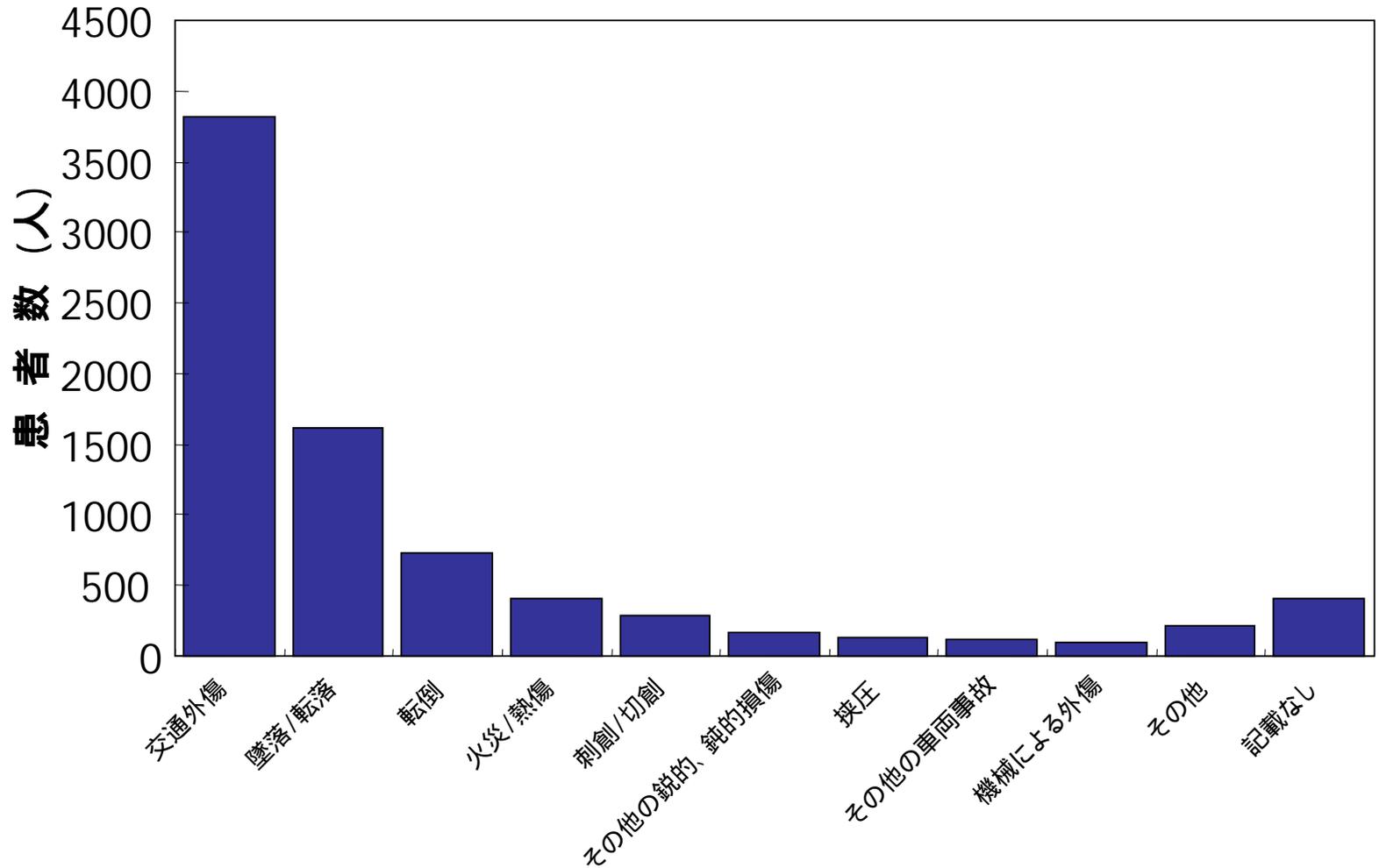


図5 受傷機転別の患者数

Japan Trauma Data Bank Report 2004-2006

受傷機転	患者数 (人)	受傷機転別患者 数の割合(%)
交通外傷	3820	47.85
墜落・転落	1615	20.23
記載なし	401	5.02
転倒	728	9.12
火災 / 熱傷	411	5.15
刺創・切創	292	3.66
その他の鋭的、鈍的損傷	167	2.09
重量物による挟圧	133	1.67
その他の車両乗車中事故・電車接触	115	1.44
機械による外傷(プレス機、回転体)	90	1.13
落下物、飛来物	80	1.00
スポーツによる事故	102	1.28
杵創(刺杭創)	10	0.13
銃創	8	0.10
爆傷	5	0.06
家屋倒壊、土砂崩れ等	6	0.08
計	7983	

表5 受傷機転別の患者数の割合

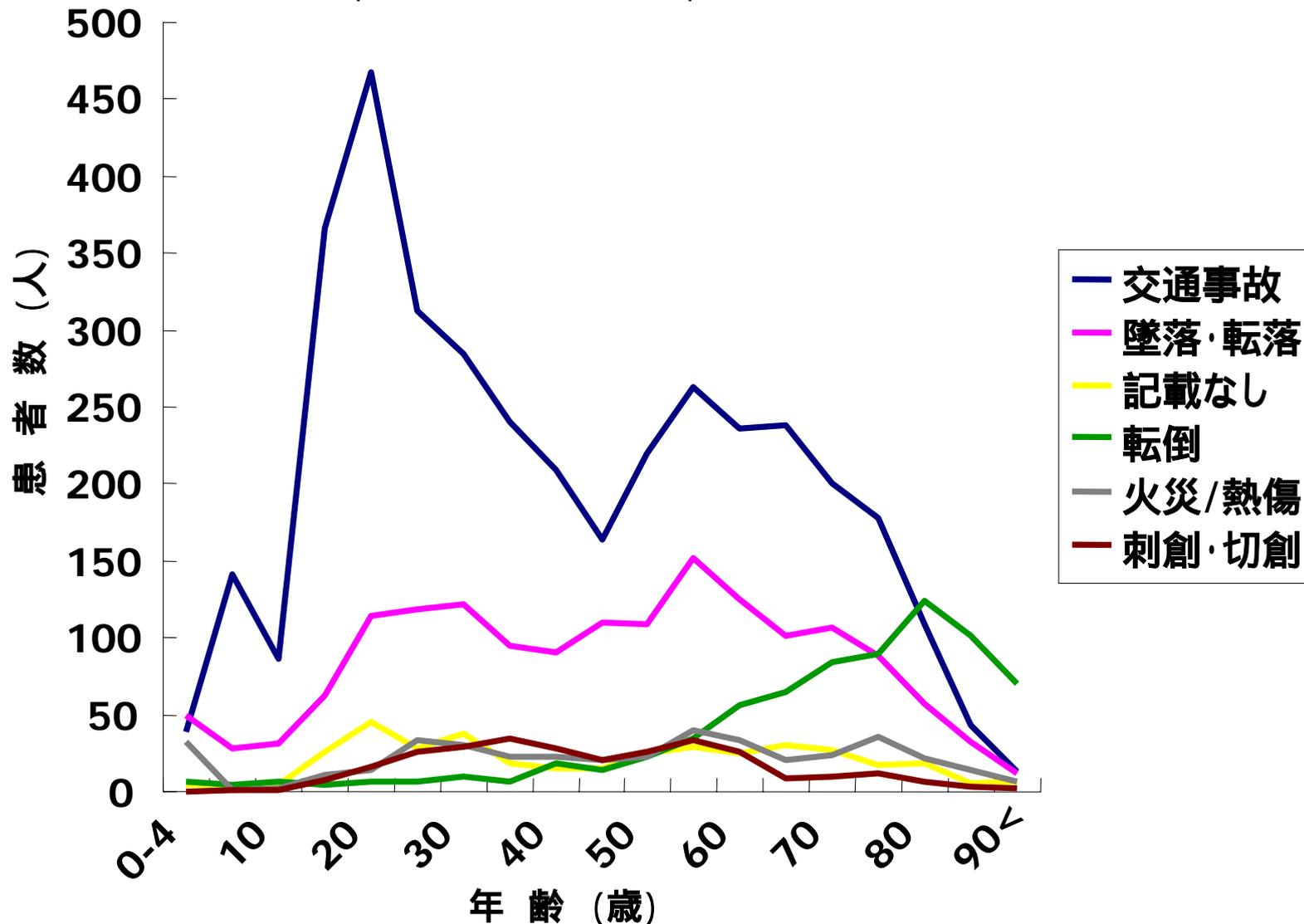


図6 受傷機転別患者数の年齢分布

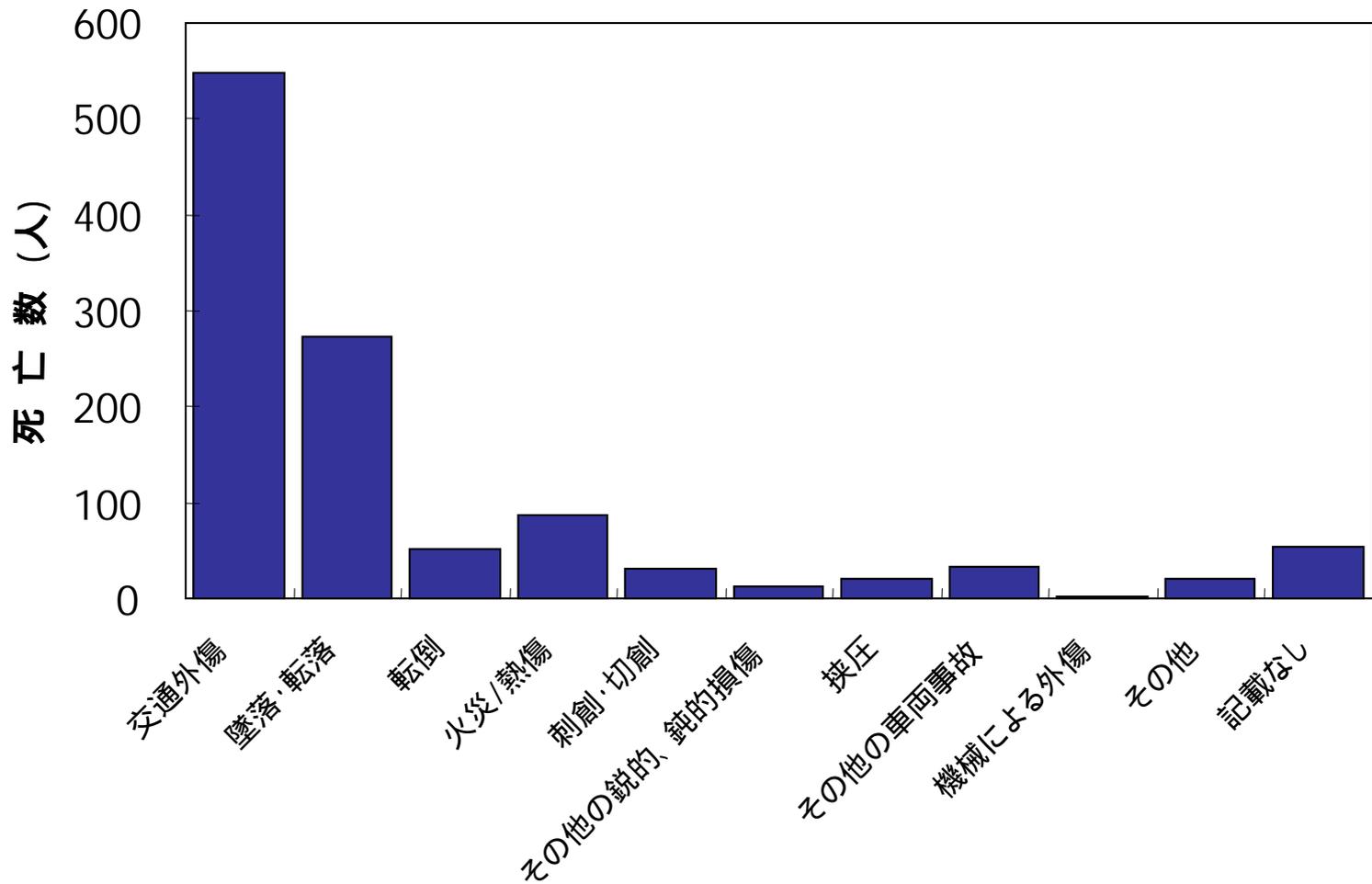
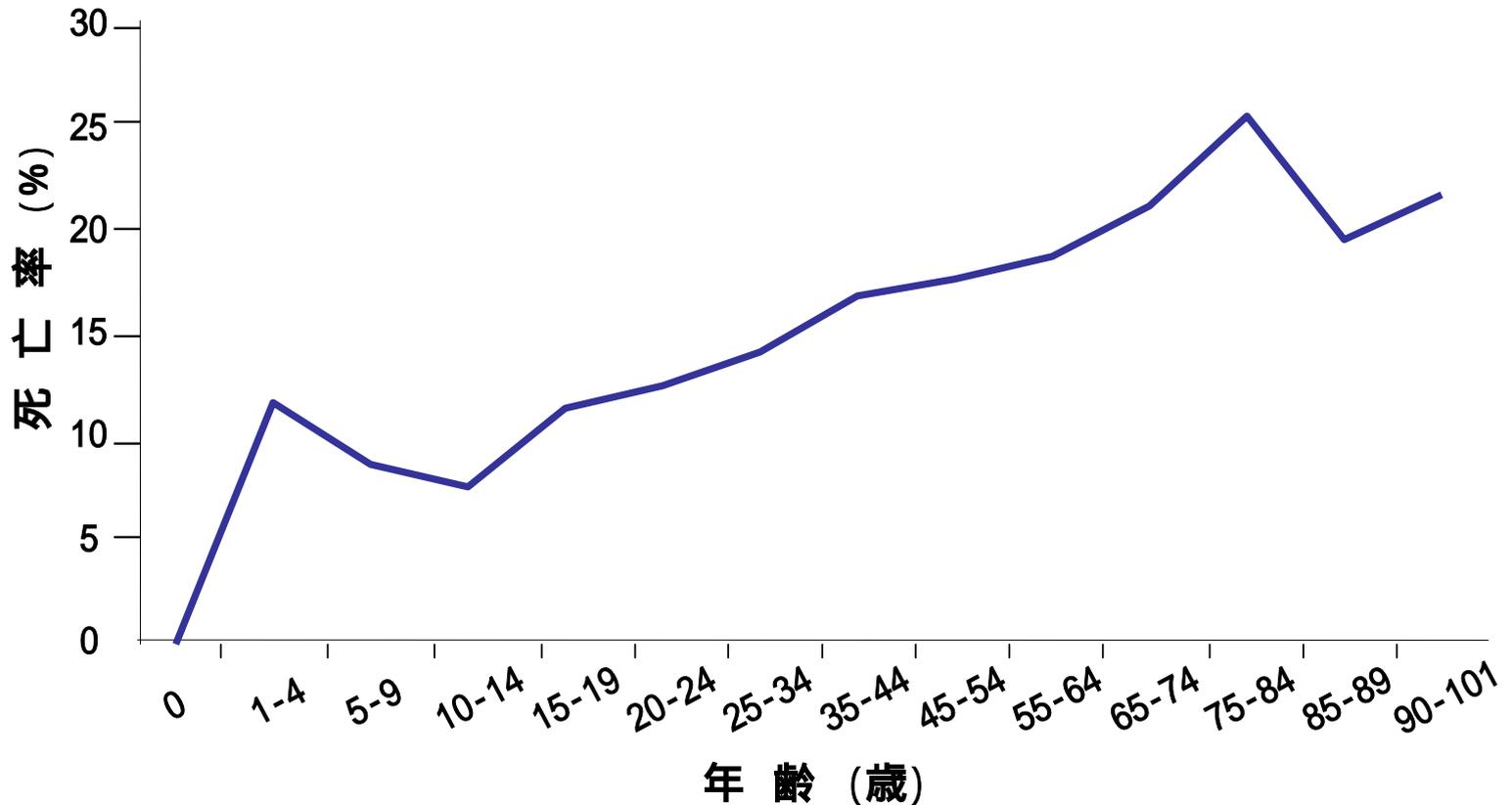


図7 受傷機転別の死亡数

受傷機転	患者数 (人)	受傷機転別死亡 数(人)	受傷機転別死亡 率(%) *
交通外傷	3820	549	21.5
墜落・転落	1615	274	25.8
転倒	728	51	10.0
火災 / 熱傷	411	87	27.4
刺創・切創	292	32	15.0
その他の鋭的、鈍的損傷	167	12	10.3
重量物による挟圧	133	20	23.5
その他の車両乗車中事故・電車接触	115	33	41.8
機械による外傷(プレス機、回転体)	90	3	5.3
落下物、飛来物	80	12	22.2
スポーツによる事故	102	5	7.1
杵創(刺杭創)	10	0	0.0
銃創	8	3	75.0
爆傷	5	0	0.0
家屋倒壊、土砂崩れ等	6	0	0.0
記載なし	401	54	30.7
計	7983	1135	21.4

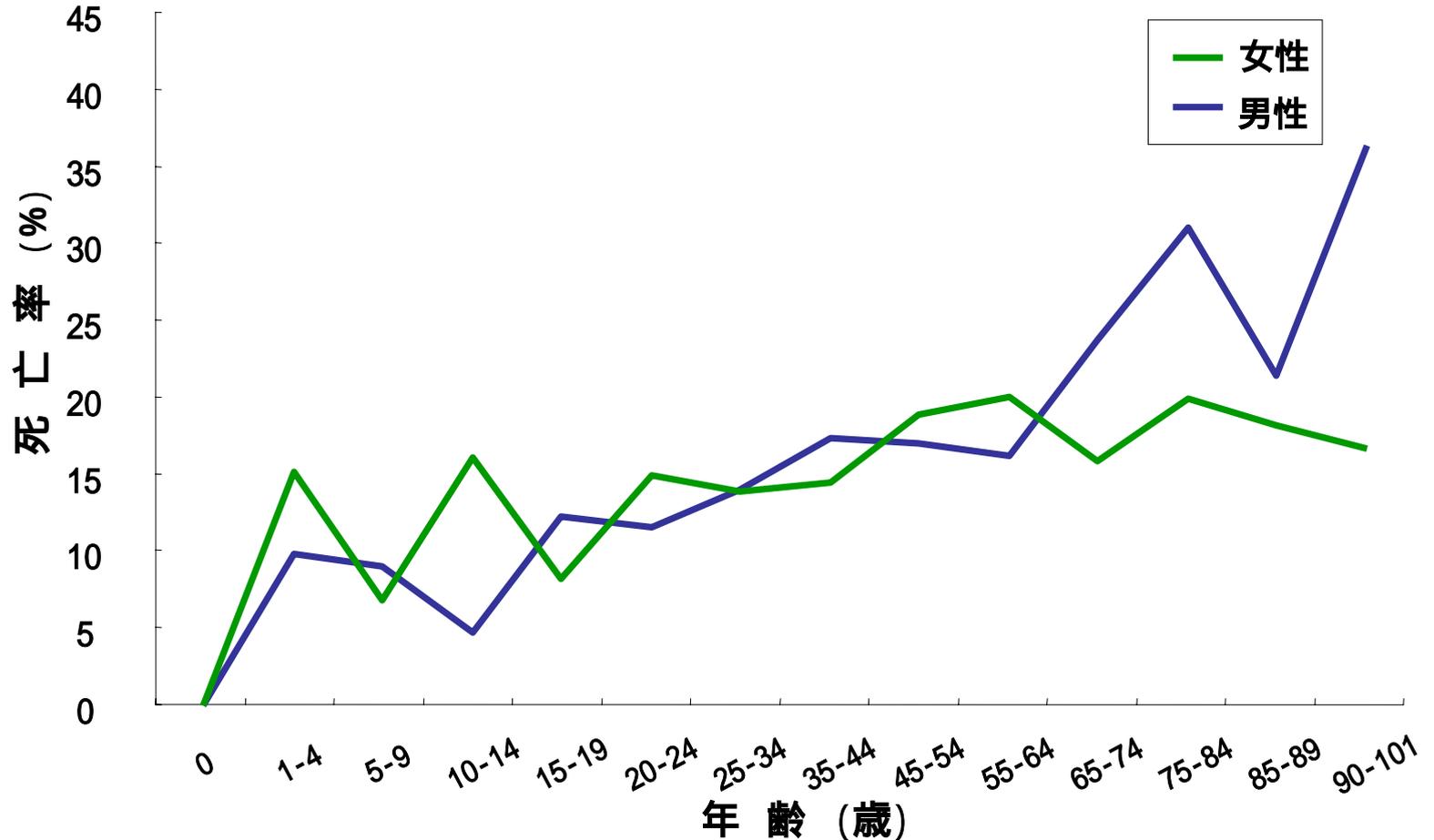
*記載なし、不明データを除いた数を分母とした

表7 受傷機転別の死亡率



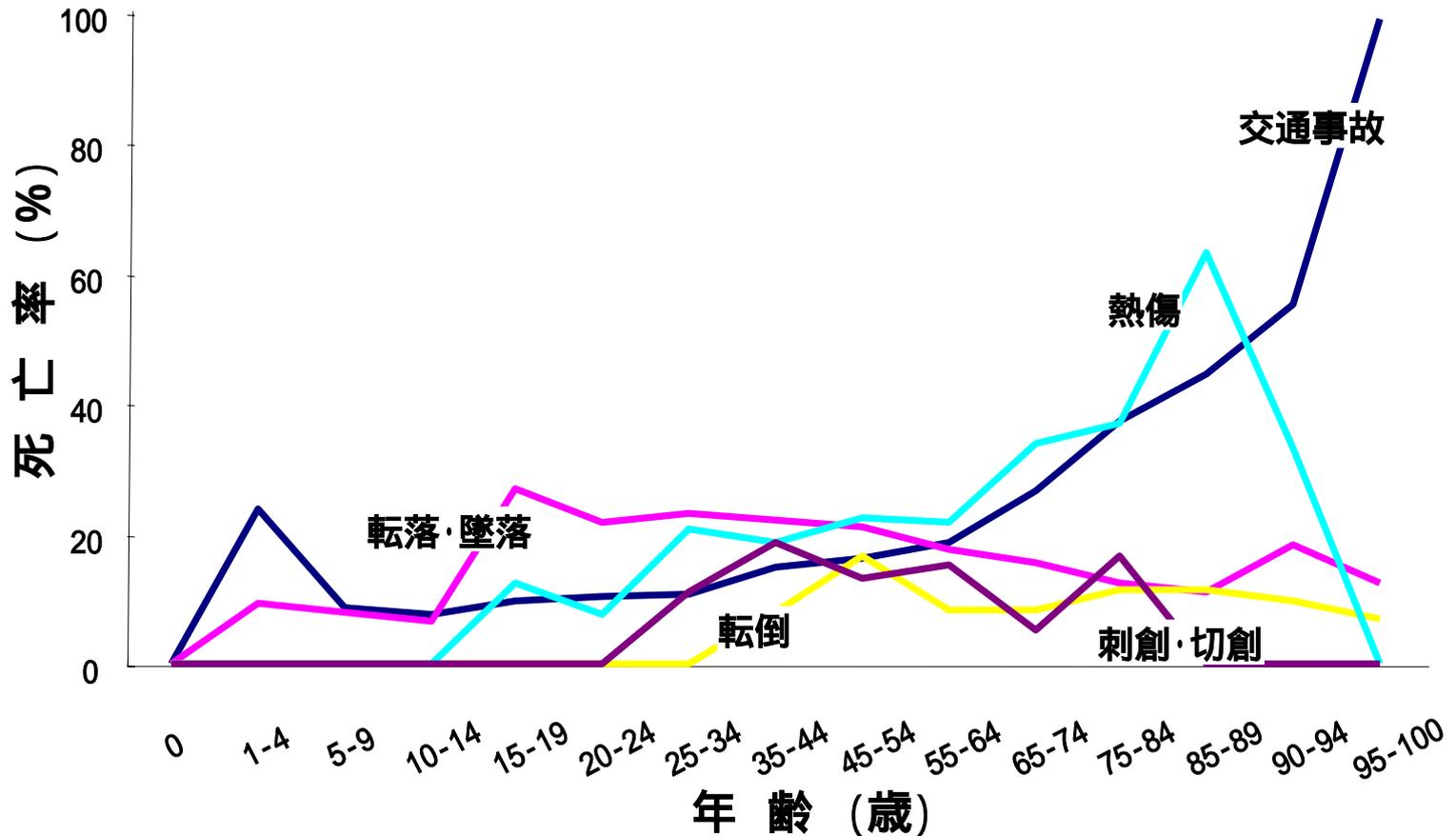
外傷死亡率は、ほぼ右肩上がりの傾向を示す。

図8 年齢別の死亡率



外傷死亡率は、男性で加齢に伴う右肩上がりの傾向を示す。

図9 性別と年齢別の患者死亡率



交通事故死亡率は、加齢とともに右肩上がりの傾向を有する。

図10 受傷機転と年齢別の患者死亡率

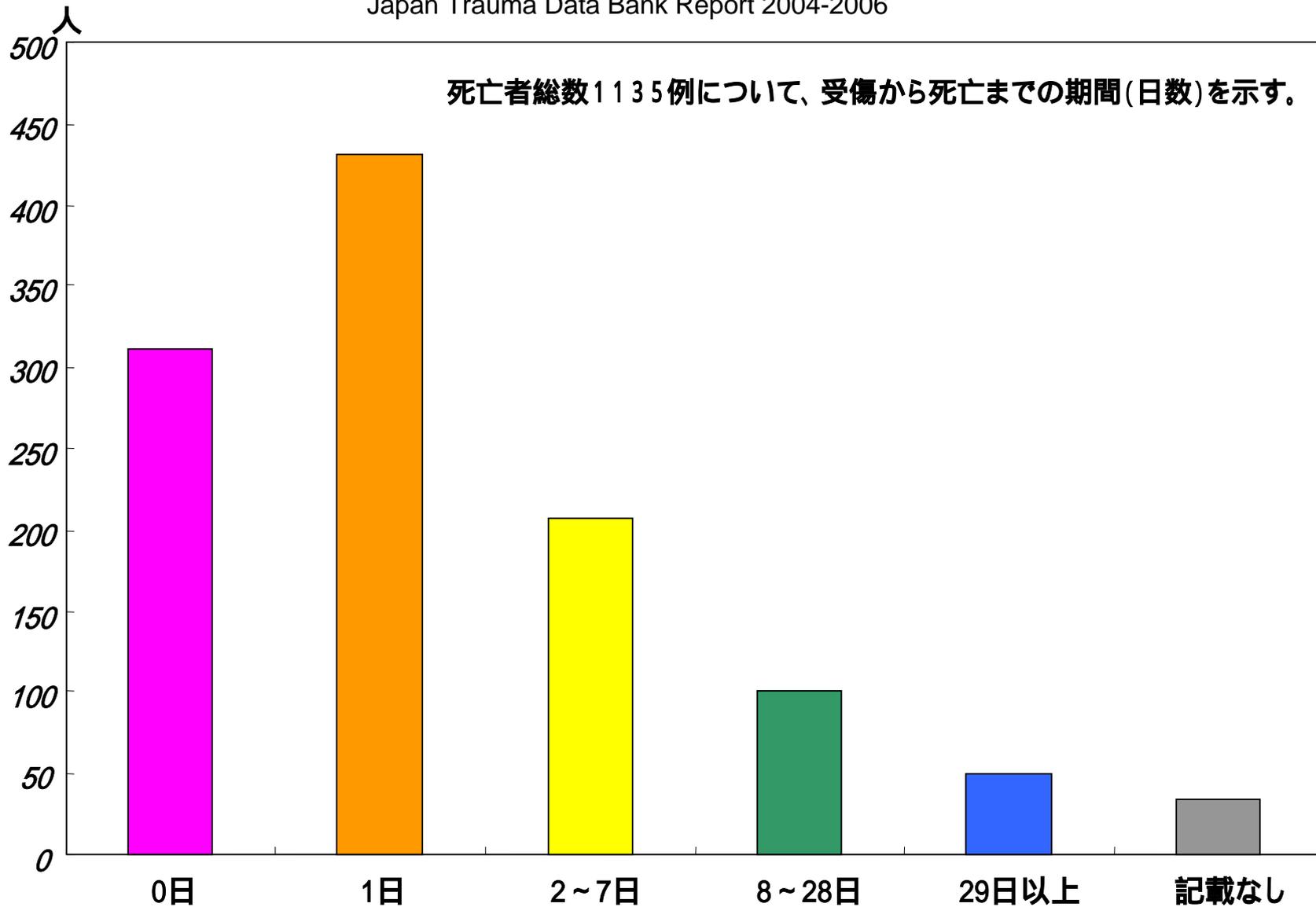


図11-A 受傷から死亡までの期間(日) (n = 1135)

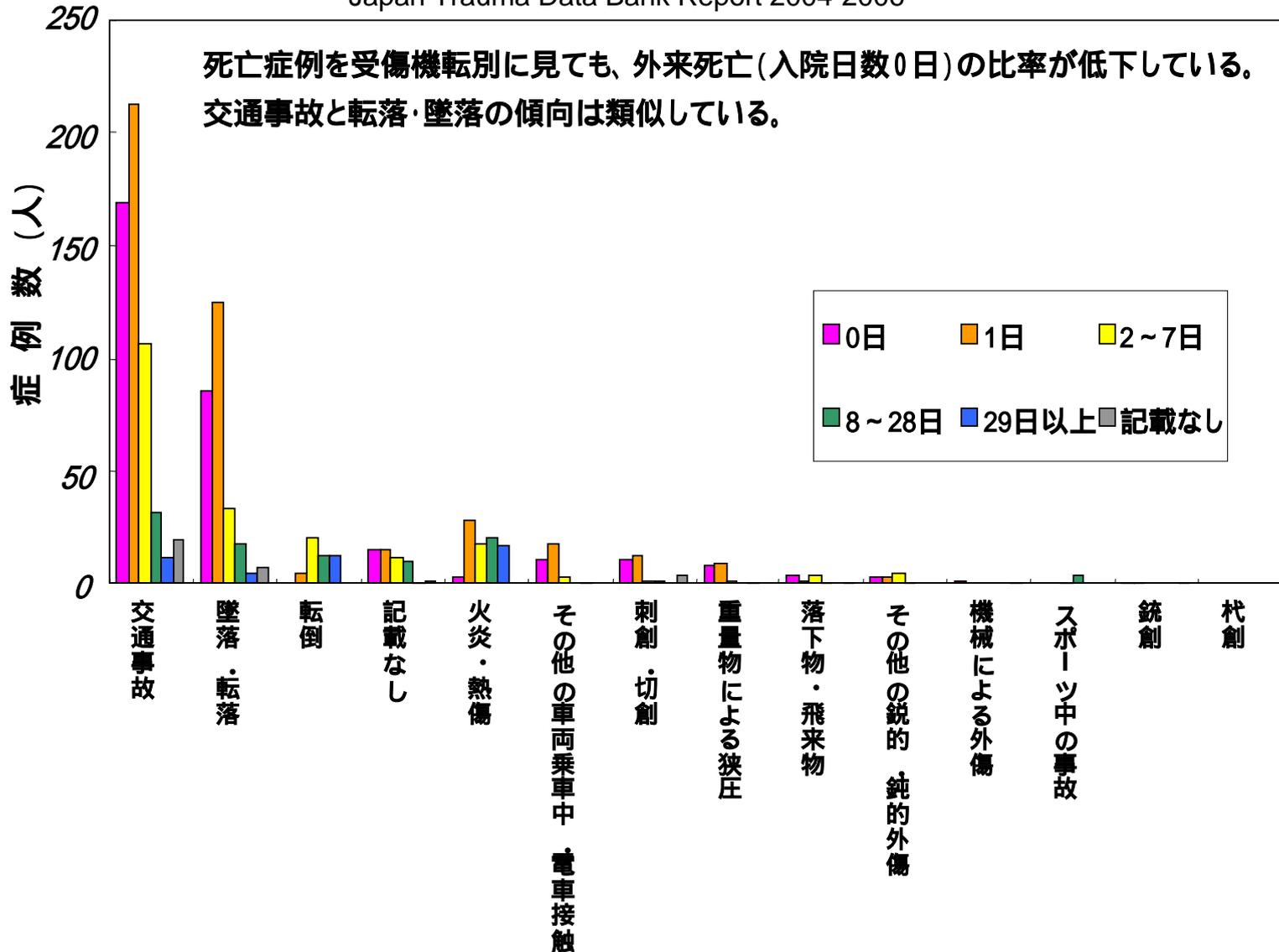


図11-B 受傷機転別の「受傷から死亡までの日数」の症例分布 (n = 1135)

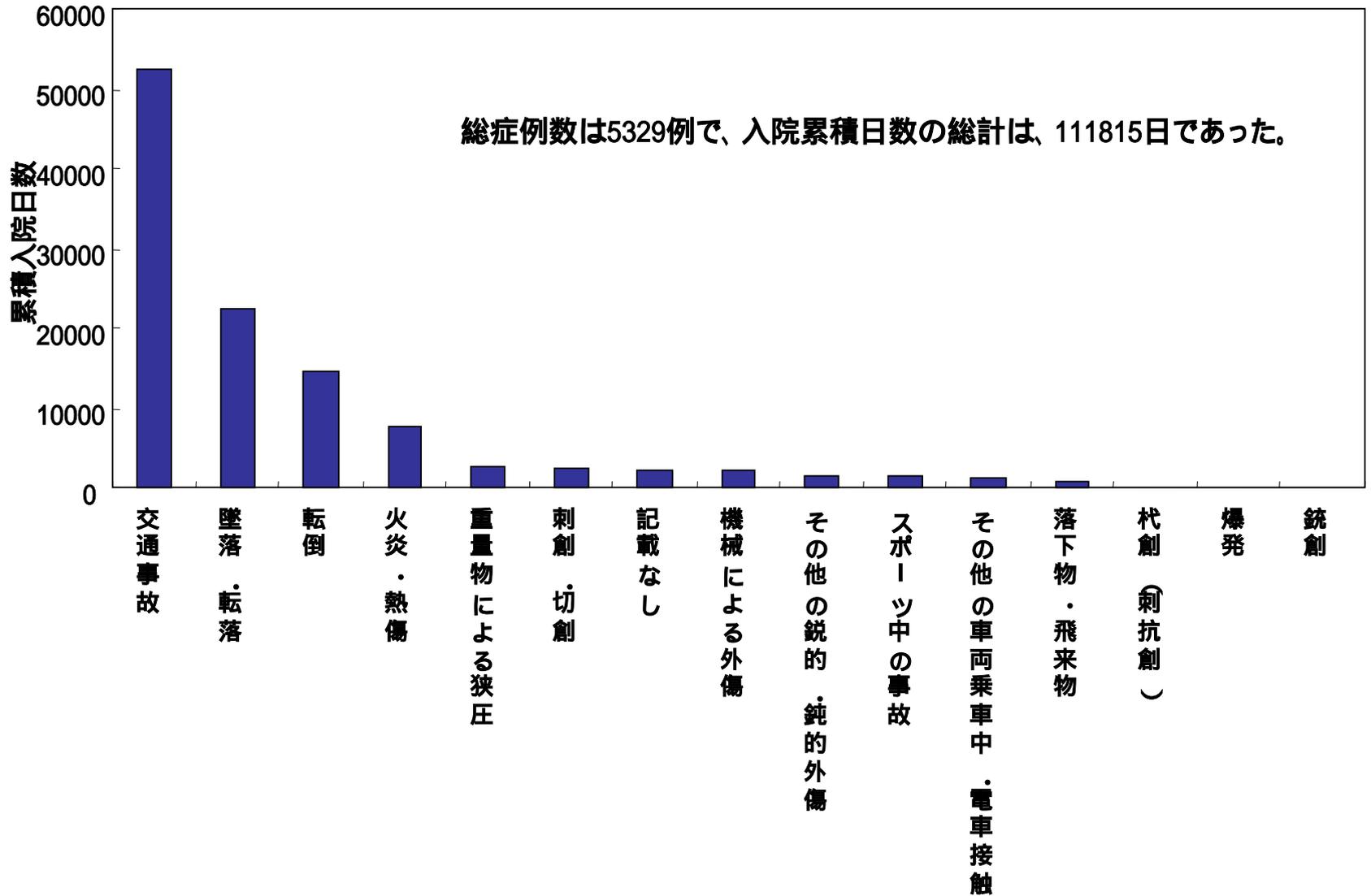


図12 受傷機転別の累積入院日数 (n = 5329)

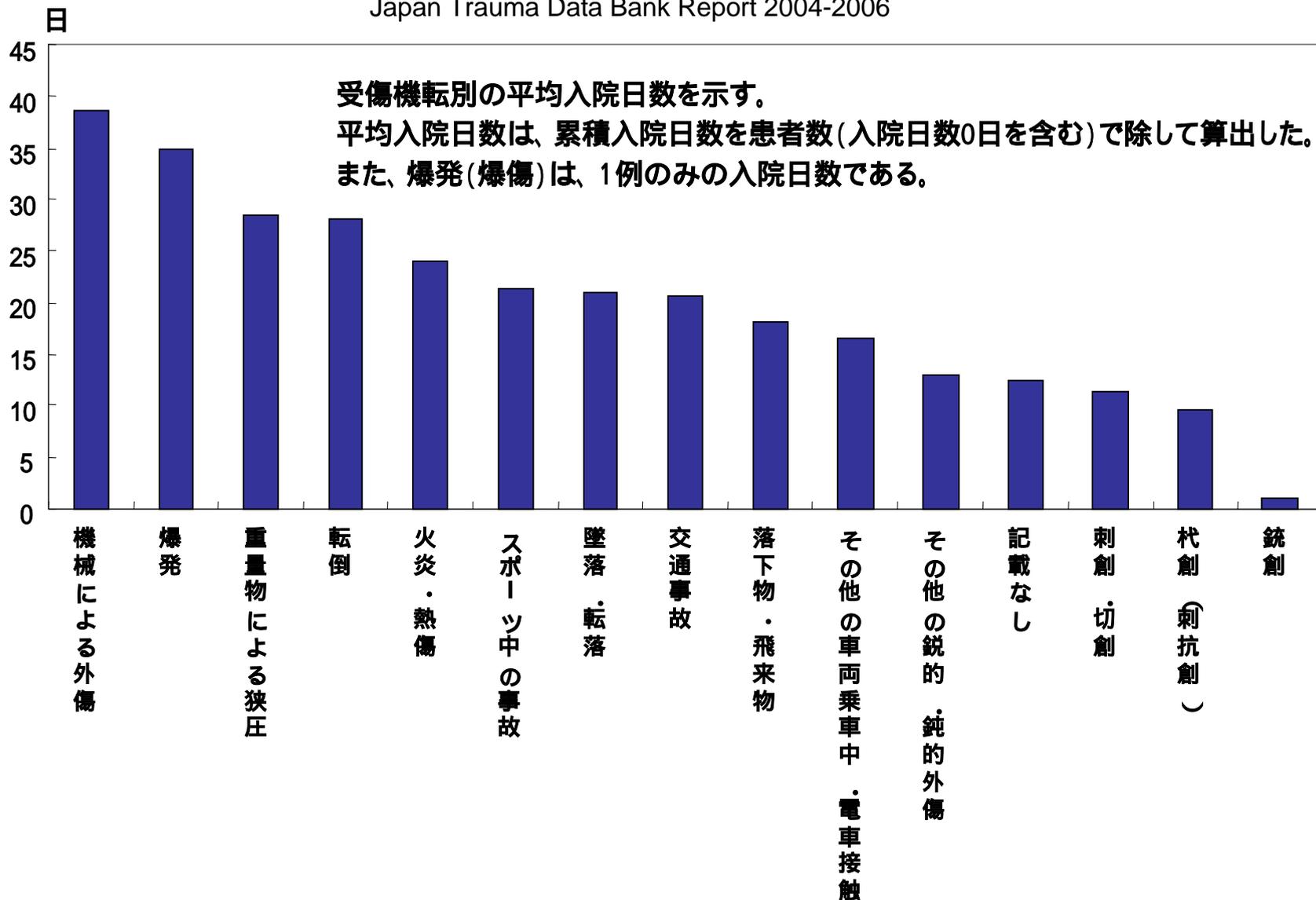
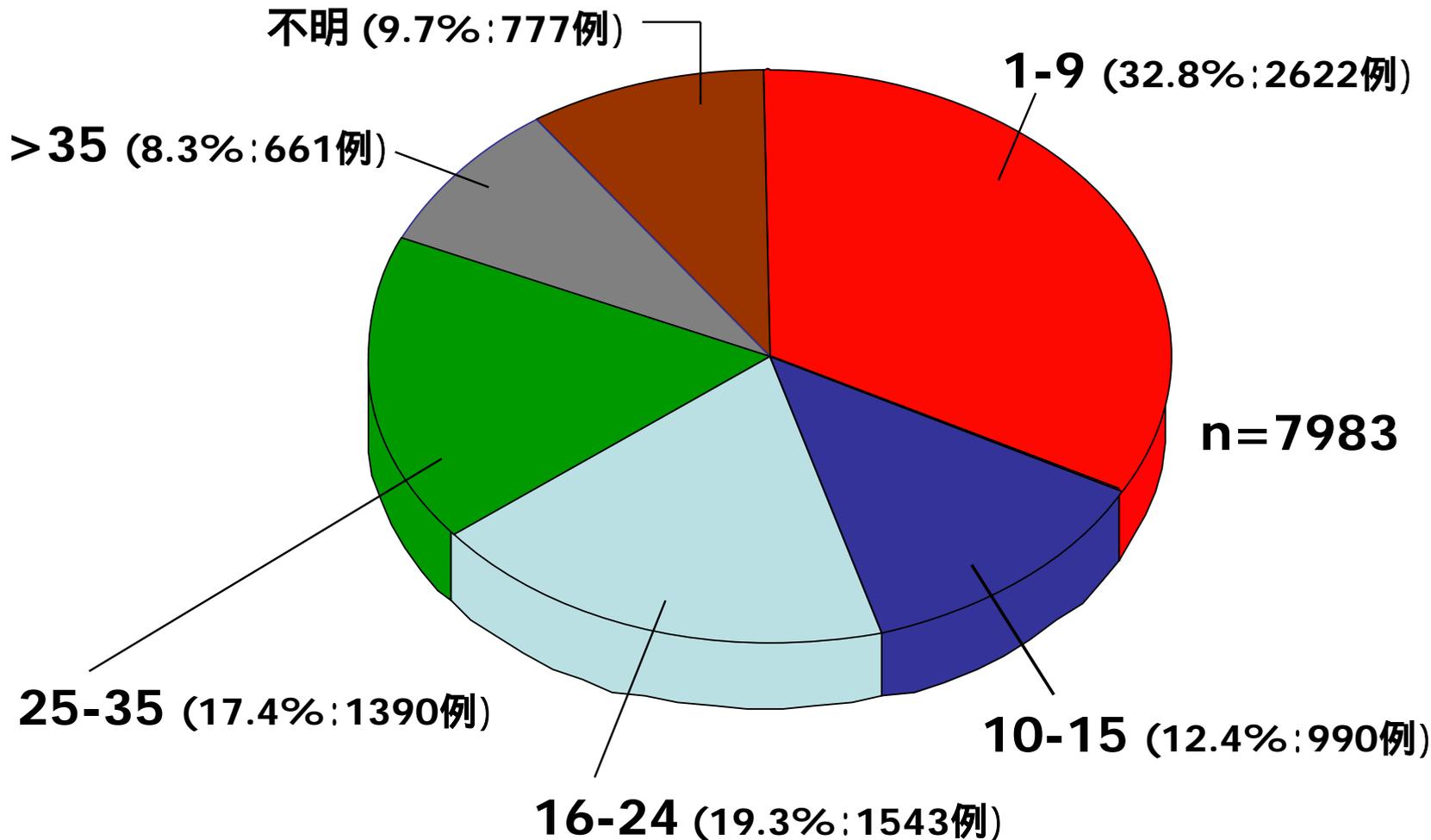
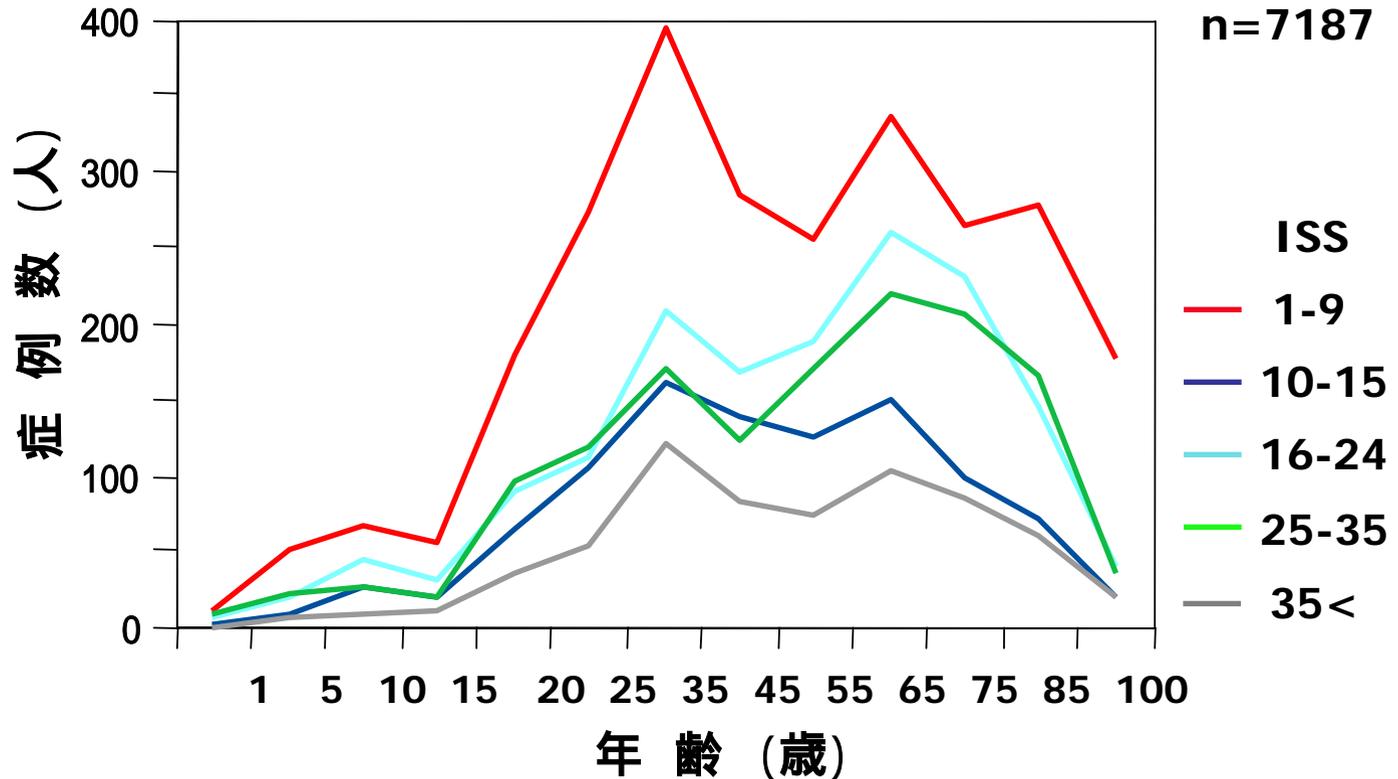


図13 受傷機転別の平均入院日数 (n = 5329)



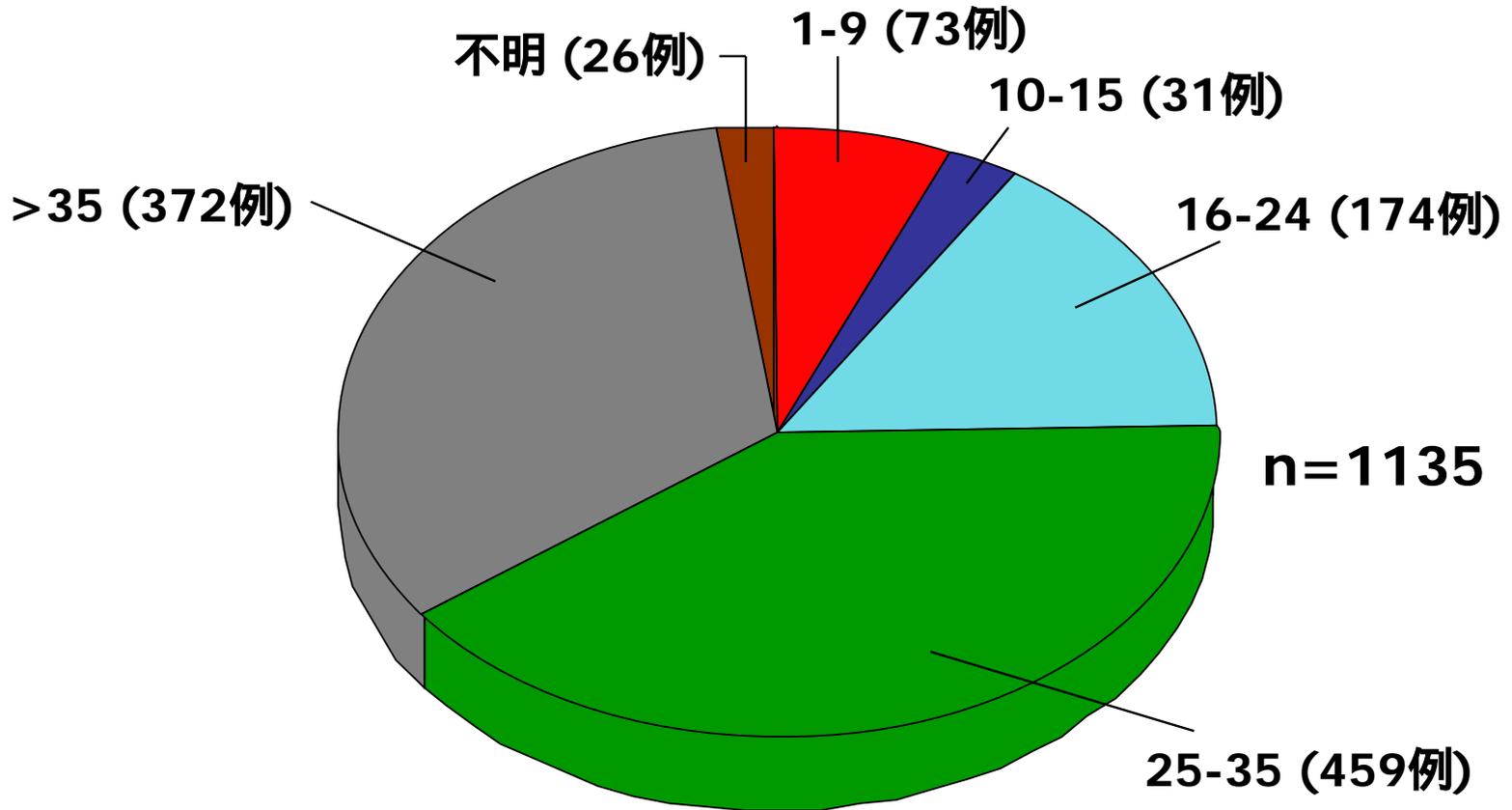
最も症例数が多かったのはISS 1-9であった。

図14 ISSカテゴリー別の症例数と割合



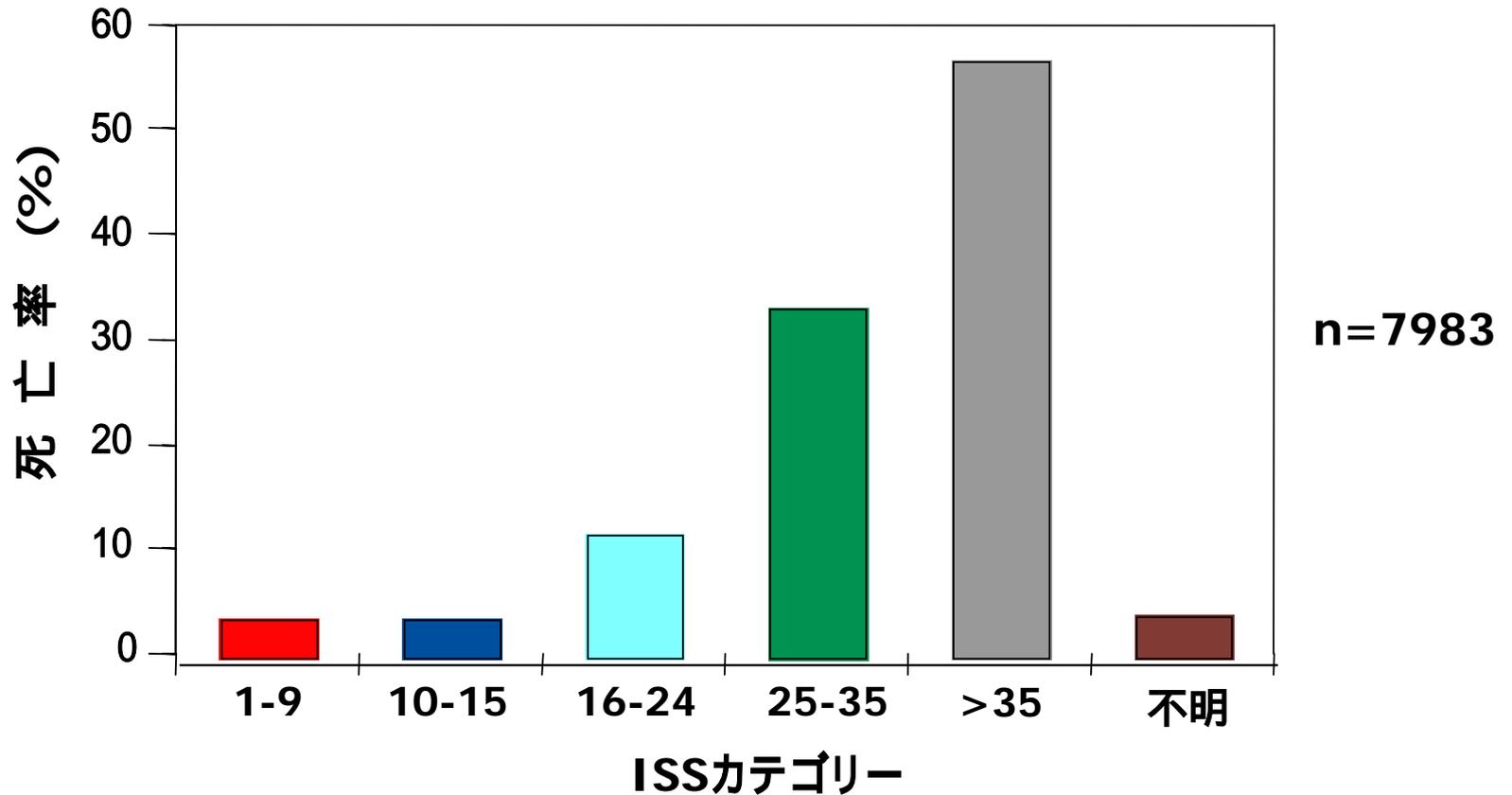
どのカテゴリーにおいてもピークは25-34歳と55-64歳にあった。

図15 ISSカテゴリー別の症例数の年齢分布



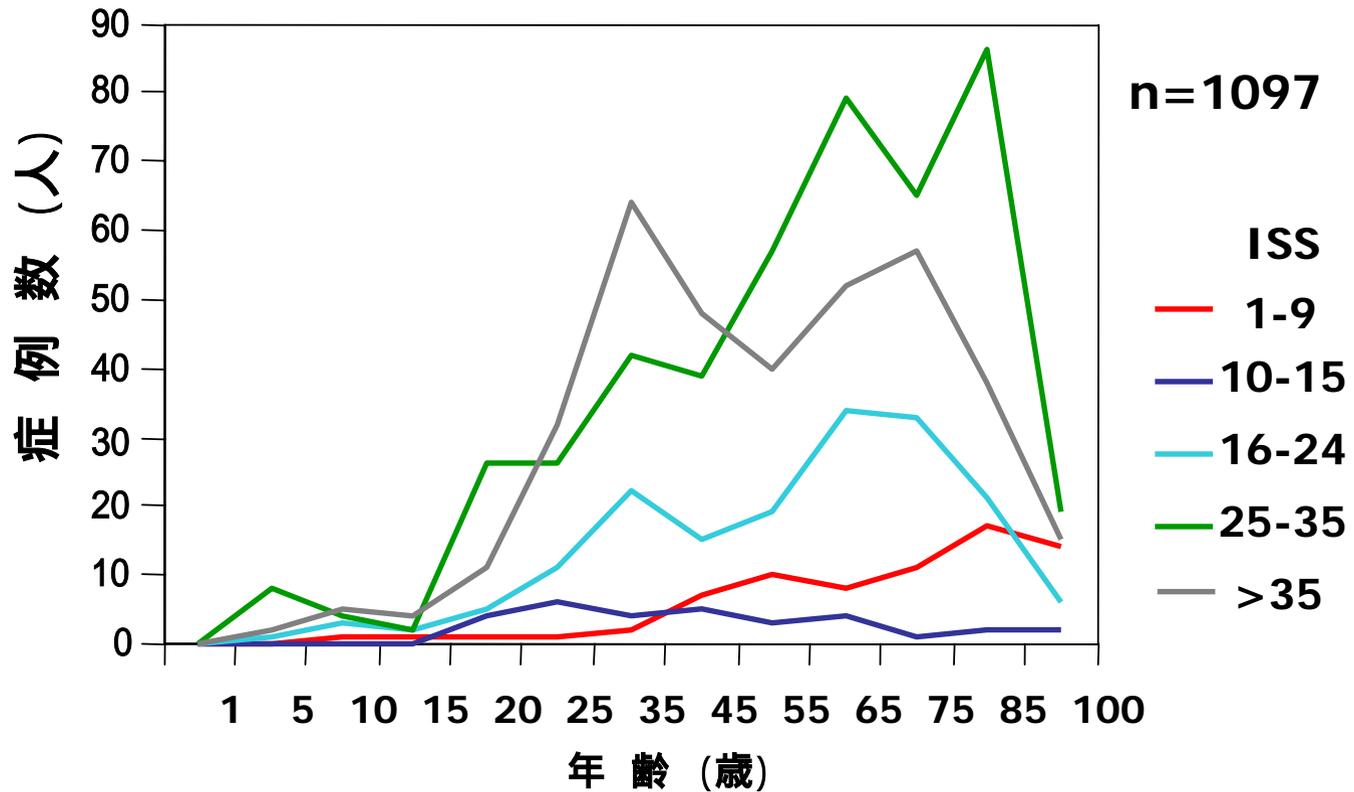
ISS 24-35の死亡数が最も多い(459例、全体の40.4%)。

図16-A ISSカテゴリー別の死亡数の割合



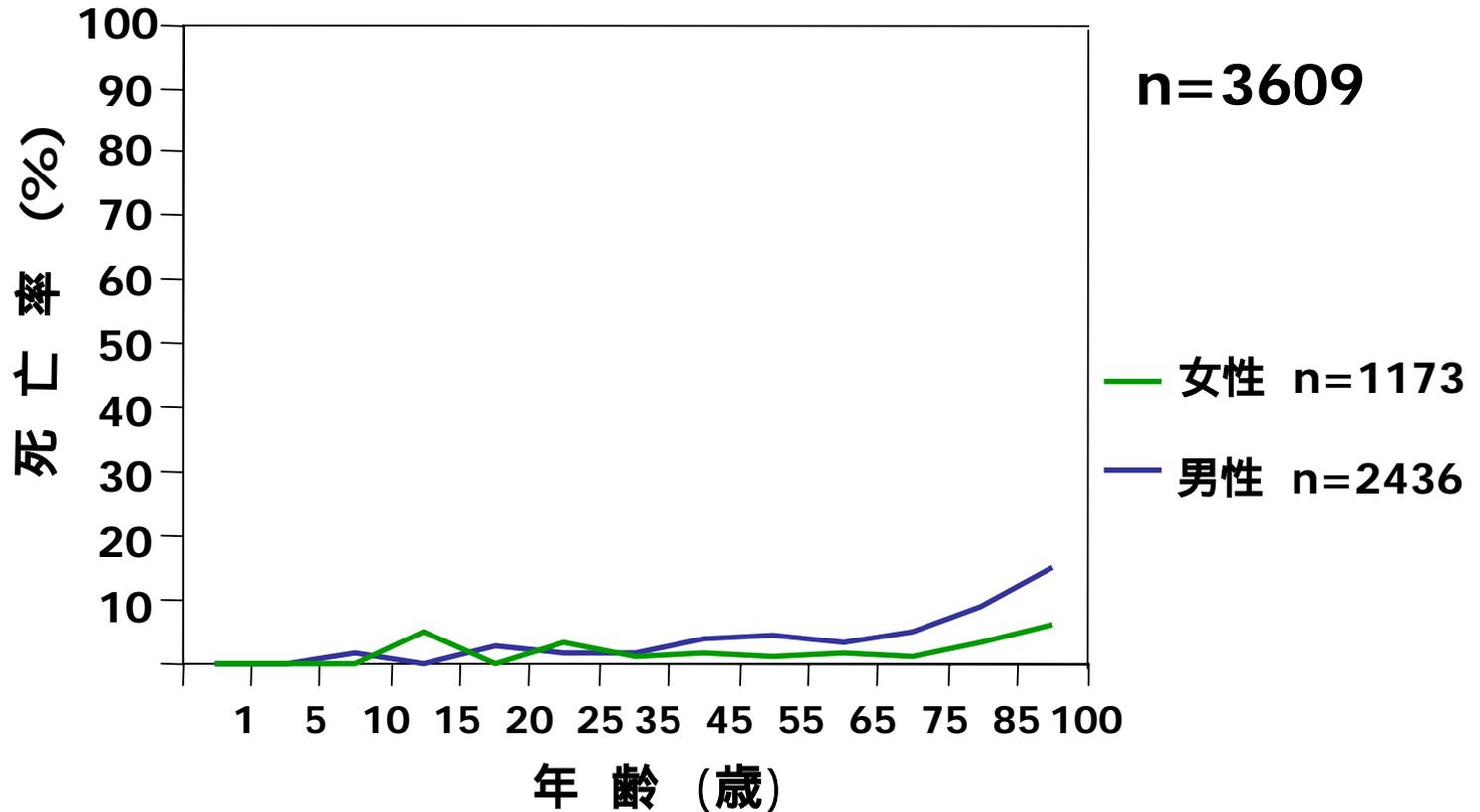
重症度の高いカテゴリーほど死亡率が高い。

図16-B ISSカテゴリー別の死亡率



ISS 16-24とISS 25-35は中高年にピークを持ち、ISS>35は若者と中高年に2つのピークを持った。

図17 ISSカテゴリー別死亡数の年齢分布



明らかな性差はみとめていない。

図18 ISS 15以下の死亡数の性別年齢分布

Japan Trauma Data Bank Report 2004-2006

年齢	男性	男性	男性	女性	女性	女性
	症例数	死亡数	死亡率	症例数	死亡数	死亡率
<1	8	0	0%	4	0	0%
1-4	42	0	0%	16	0	0%
5-9	68	1	1.47%	26	0	0%
10-14	53	0	0%	21	1	4.76%
15-19	189	5	2.65%	57	0	0%
20-24	305	5	1.64%	72	2	2.78%
25-34	425	5	1.18%	131	1	0.76%
35-44	290	10	3.45%	131	2	1.53%
45-54	281	12	4.27%	98	1	1.02%
55-64	351	10	2.85%	133	2	1.50%
65-74	220	11	5.00%	142	1	0.70%
75-84	149	13	8.72%	200	6	3.00%
85<	55	8	14.55%	142	8	5.63%
総数	2436	80		1173	24	

表18 ISS 15以下の性別の年齢層別死亡数と死亡率

© Japan Trauma Care and Research 2006. All Rights Reserved Worldwide

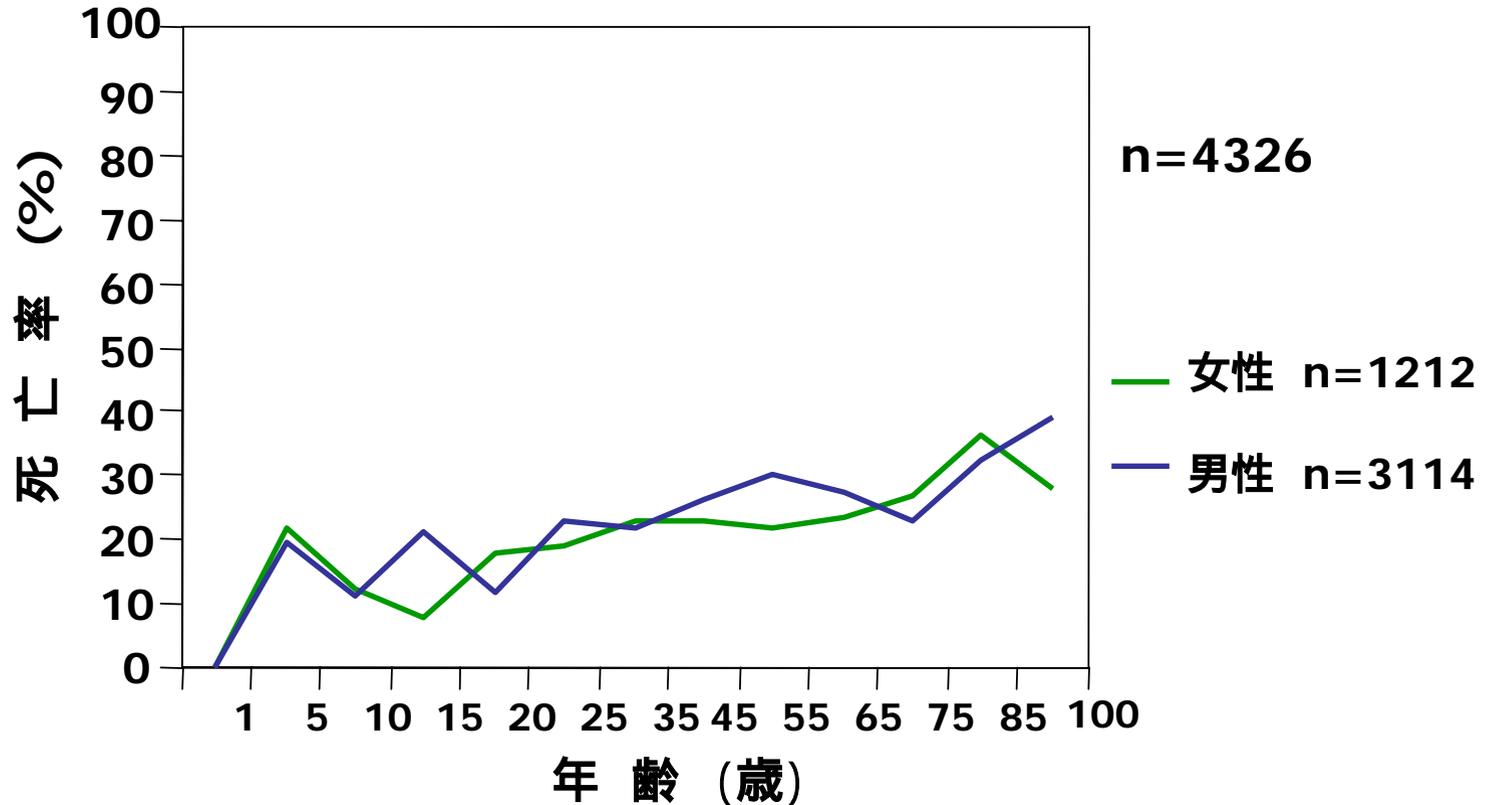


図19 ISS 16以上の死亡数の性別年齢分布

Japan Trauma Data Bank Report 2004-2006

年齢	男性	男性	男性	女性	女性	女性
	患者数	死亡患者数	死亡率	患者数	死亡患者数	死亡率
<1	11	0	0%	5	0	0%
1-4	28	6	21.43%	26	5	19.23%
5-9	75	9	12.00%	27	3	11.11%
10-14	54	4	7.41%	19	4	21.05%
15-19	214	37	17.29%	71	8	11.27%
20-24	282	53	18.79%	75	17	22.67%
25-34	453	102	22.52%	139	30	21.58%
35-44	376	84	22.34%	100	26	26.00%
45-54	388	83	21.39%	115	34	29.57%
55-64	499	115	23.05%	192	52	27.08%
65-74	434	114	26.27%	189	43	22.75%
75-84	245	88	35.92%	189	60	31.75%
85<	55	15	27.27%	65	25	38.46%
総数	3114	710		1212	307	

表19 ISS 16以上の性別の年齢層別死亡数と死亡率

© Japan Trauma Care and Research 2006. All Rights Reserved Worldwide

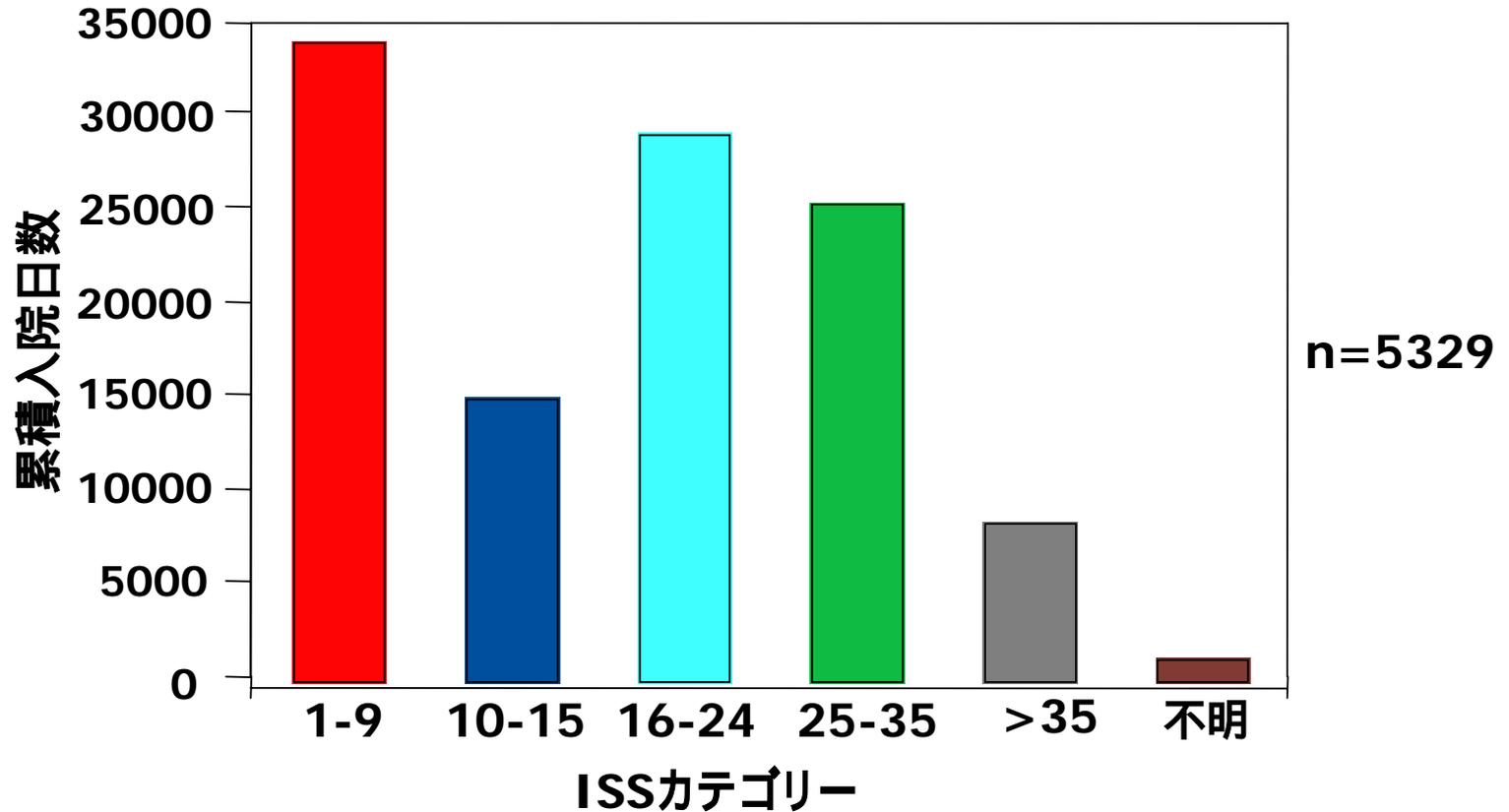


図20-A ISS カテゴリー別の累積入院日数 (n = 5329)

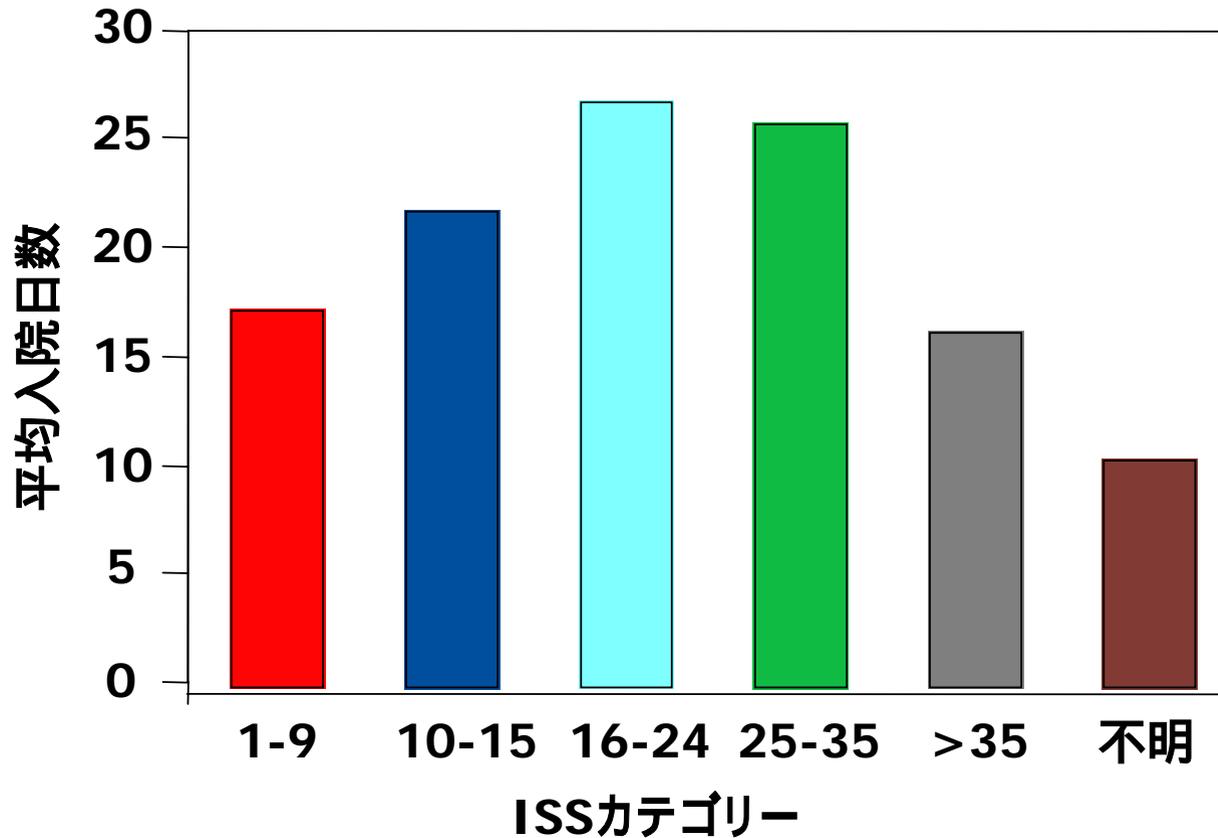
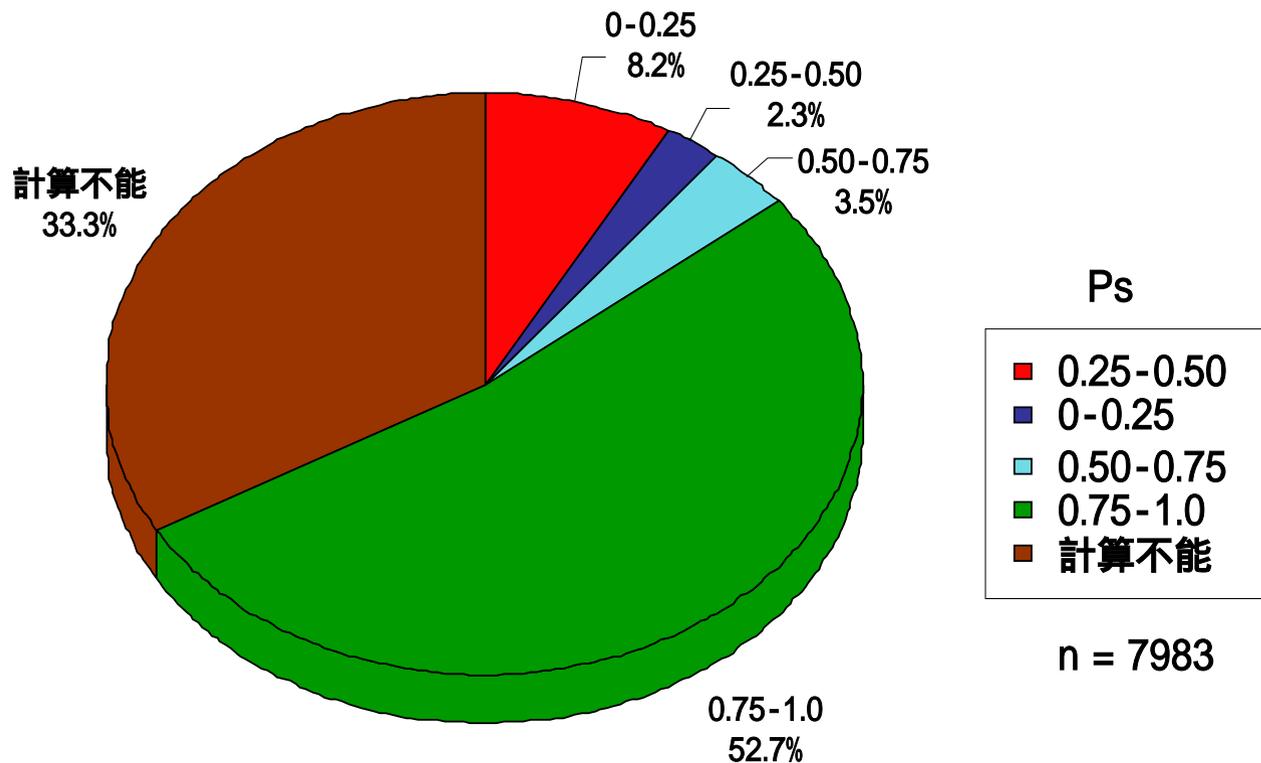
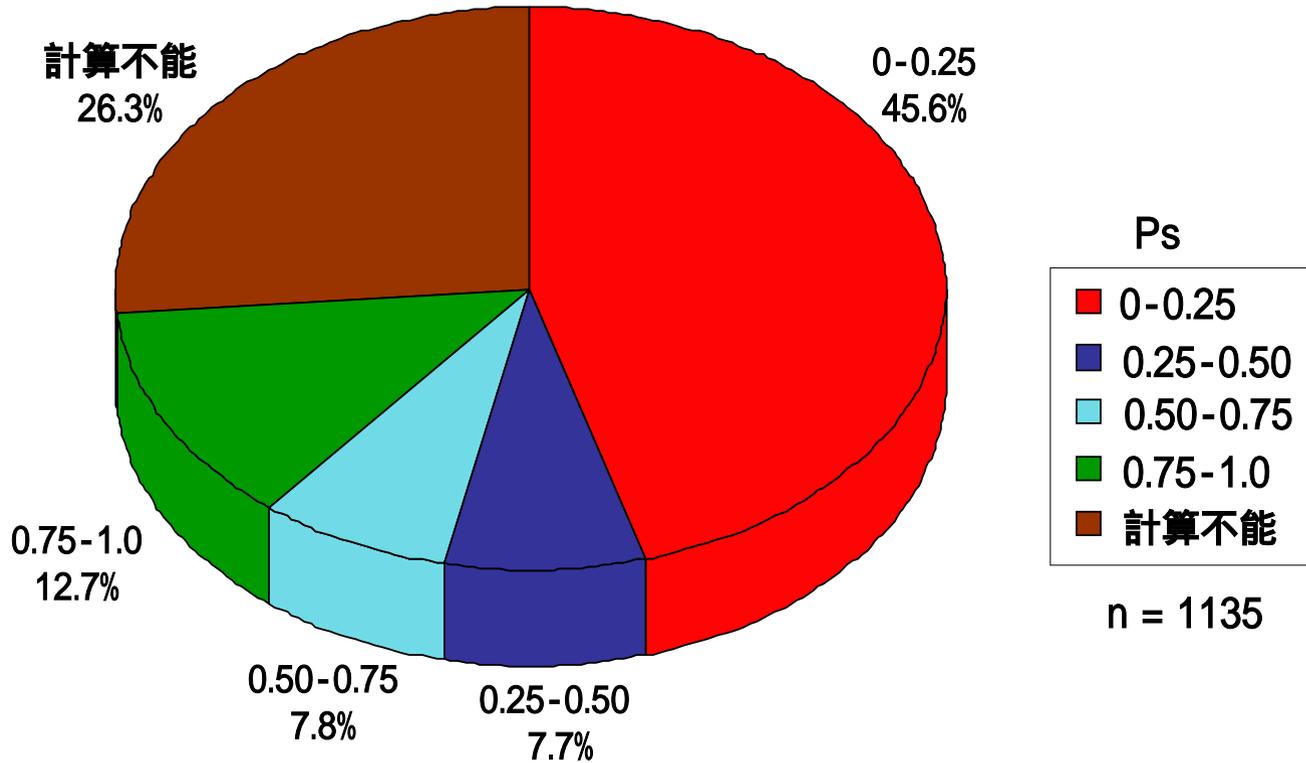


図20-B ISS カテゴリー別の平均入院日数 (n = 5329)



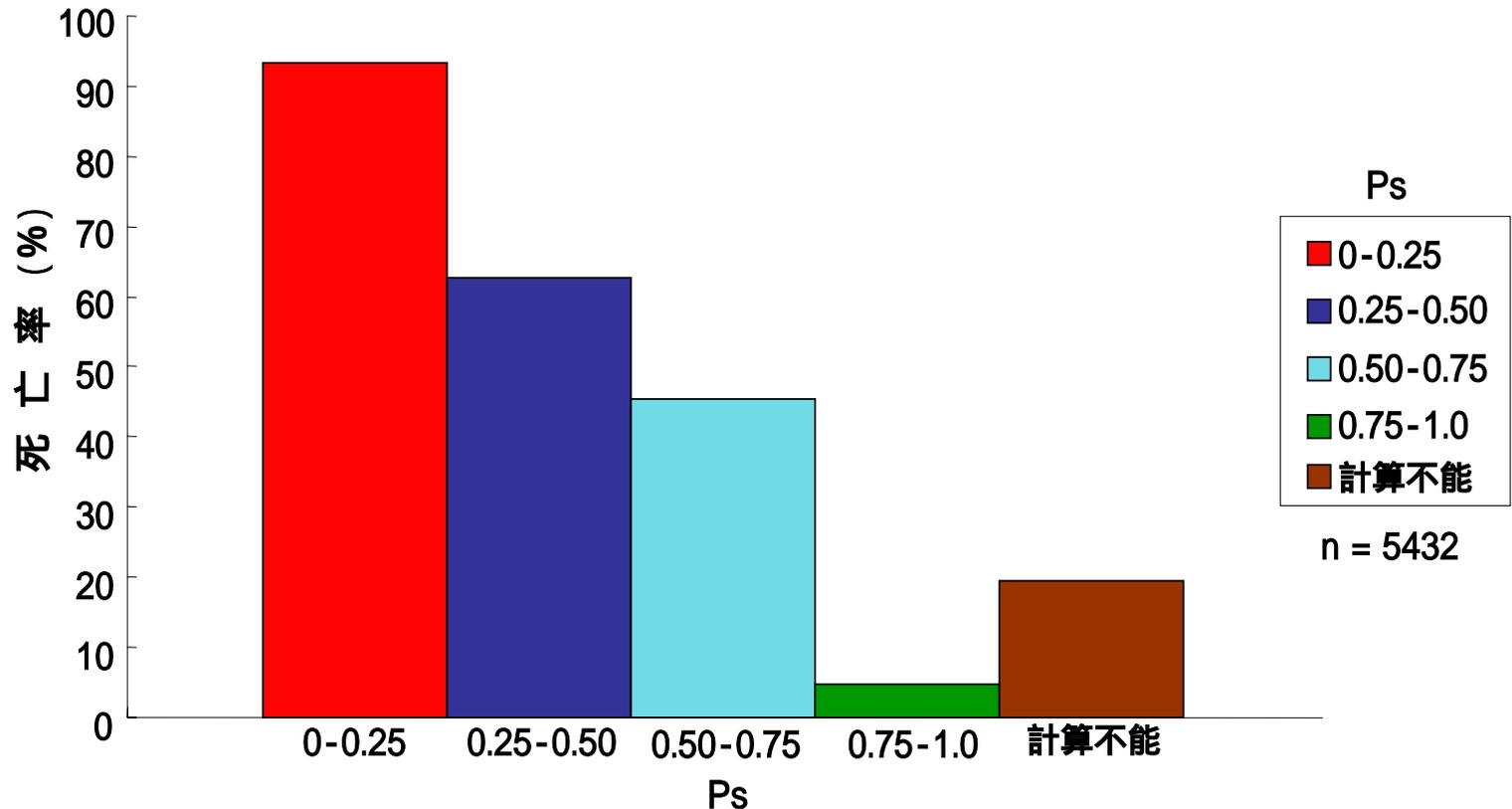
Ps(0.75-1.0)の症例が52.7%を占め、最も多かった。また、Psの計算に必要な項目が欠損している症例が33.3%あった。

図21 Probability of Survival (Ps) カテゴリー別の症例数の割合



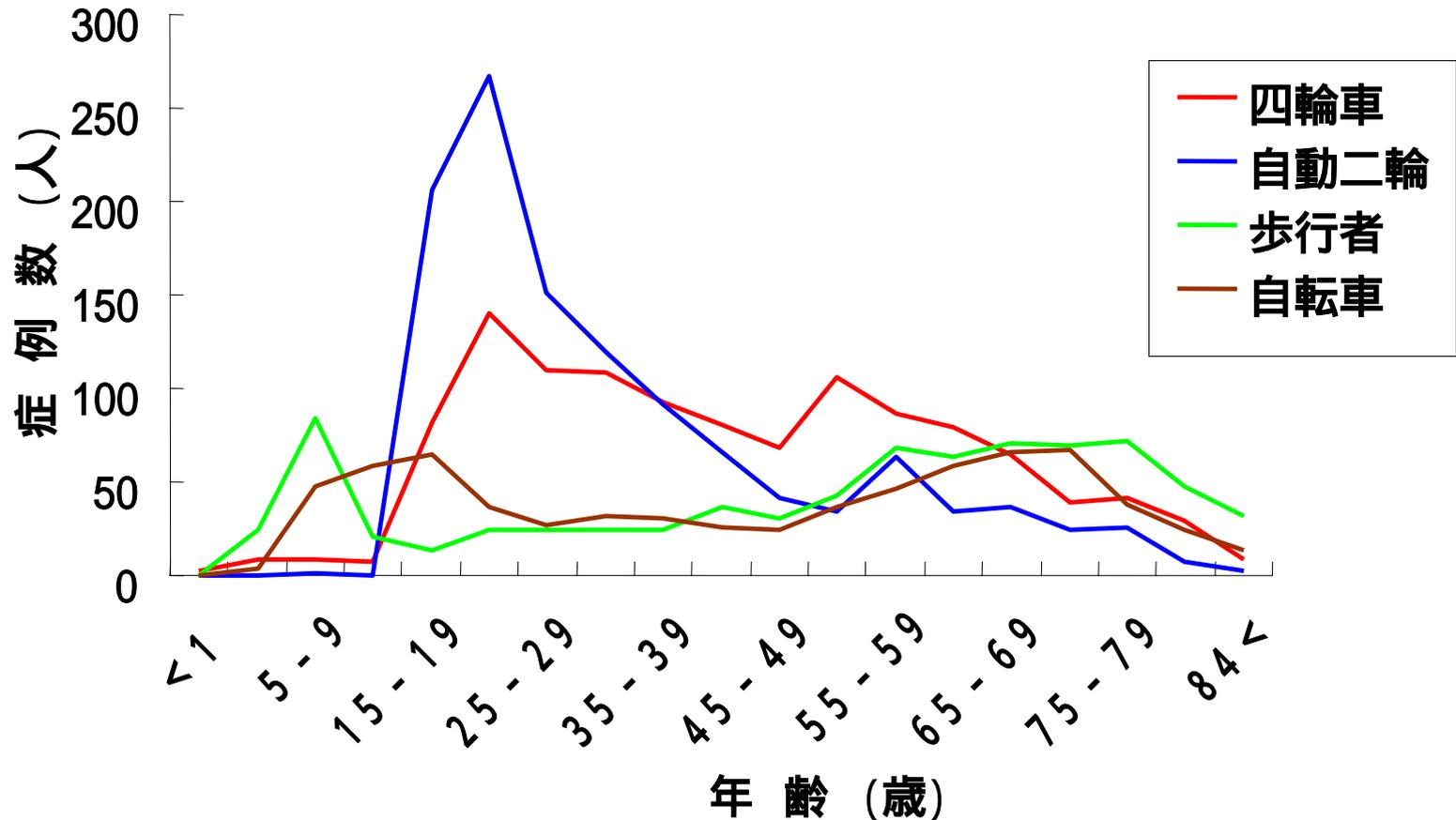
Psが0-0.25の群が死亡者の45.6%を占め最も多かった。

図22-A Probability of survival (Ps) カテゴリー別の死亡数の割合



Psが0-0.25の群では死亡率が90%を超え、0.25-0.5の群でも60%を超えていた。
Psが0.75-1.0の群では死亡率は4.8%であった。

図22-B 各Probability of survival (Ps) カテゴリーの死亡率



自転車のピークは高齢者と若年層に、四輪者と自動二輪車のピークは若年層にあった。また歩行者は、小児と高齢者の二峰性の分布を示した。

図23 交通事故患者における種類別および年齢別の患者数

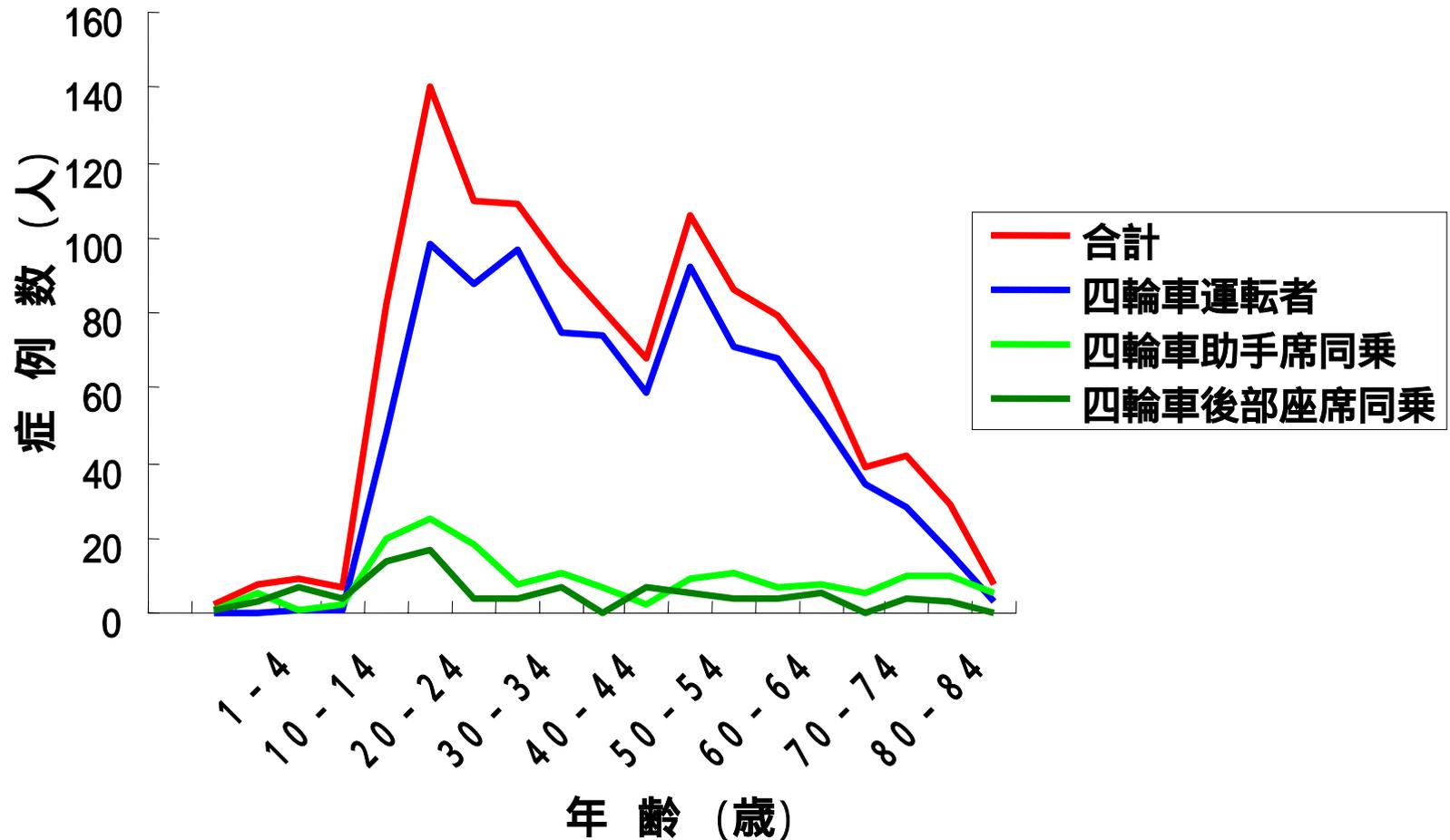


図24 四輪車事故症例数の運転者・乗客別年齢分布

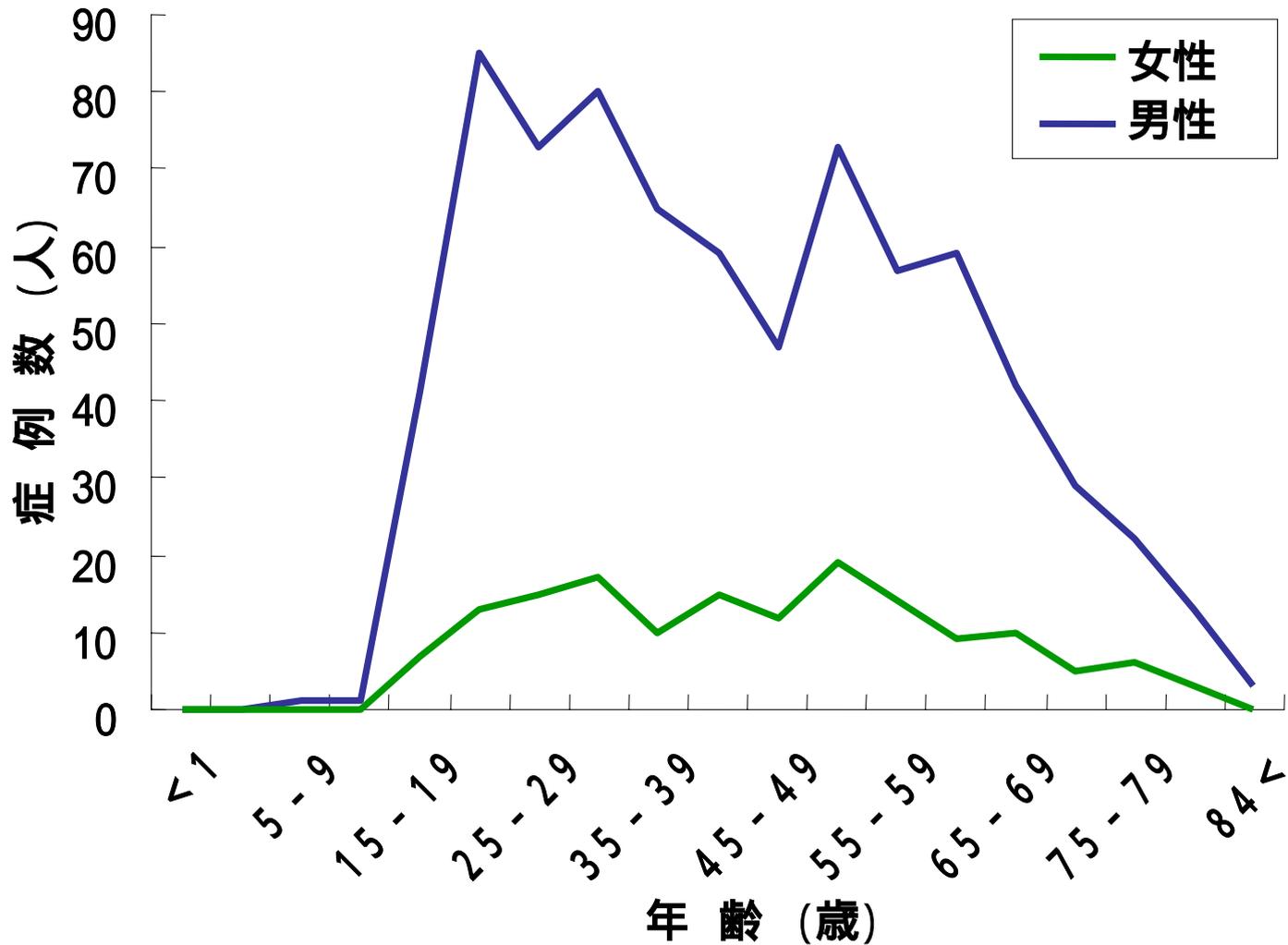


図25 四輪者事故(運転者)症例数の性別年齢分布

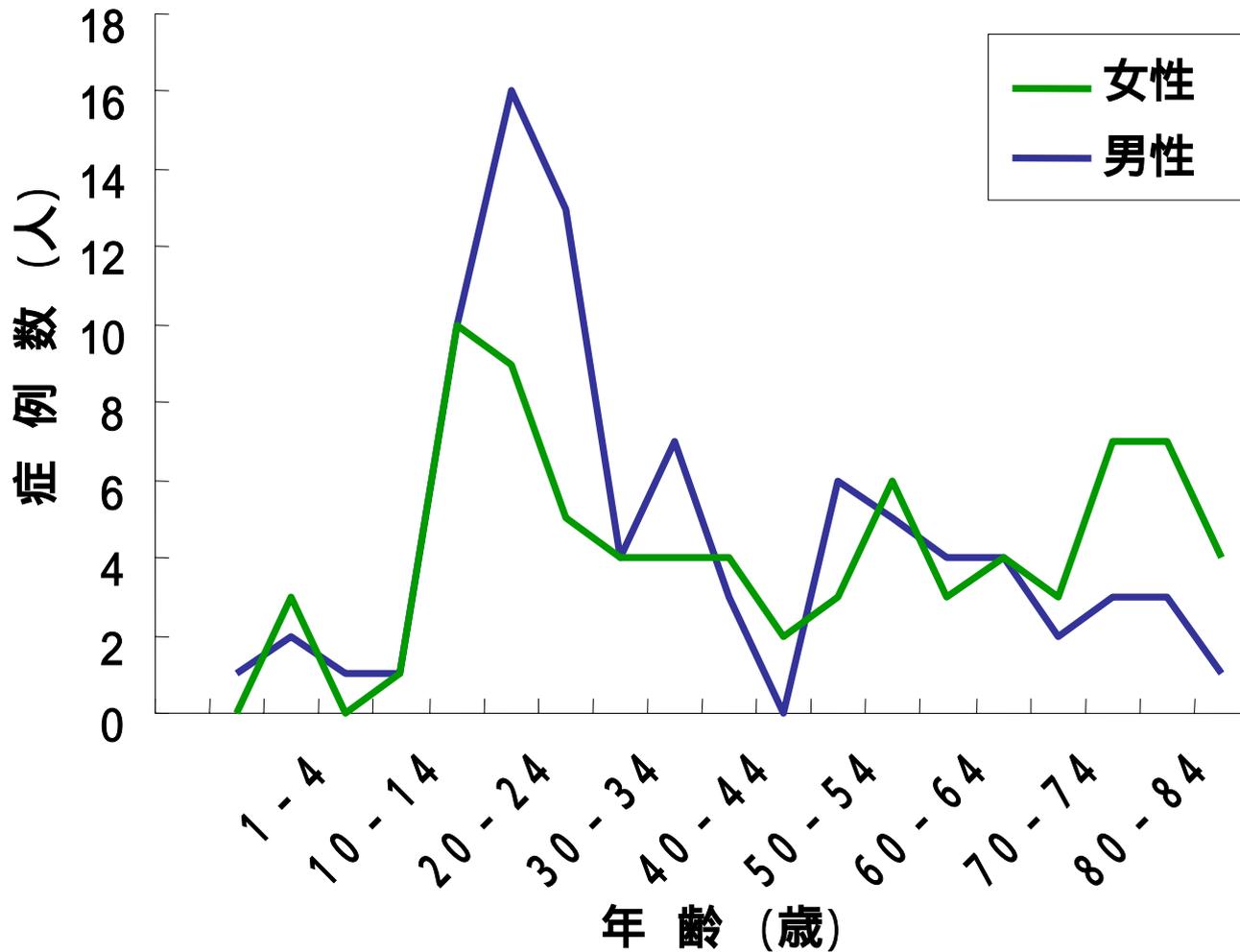


図26 四輪者事故(助手席)症例数の性別年齢分布

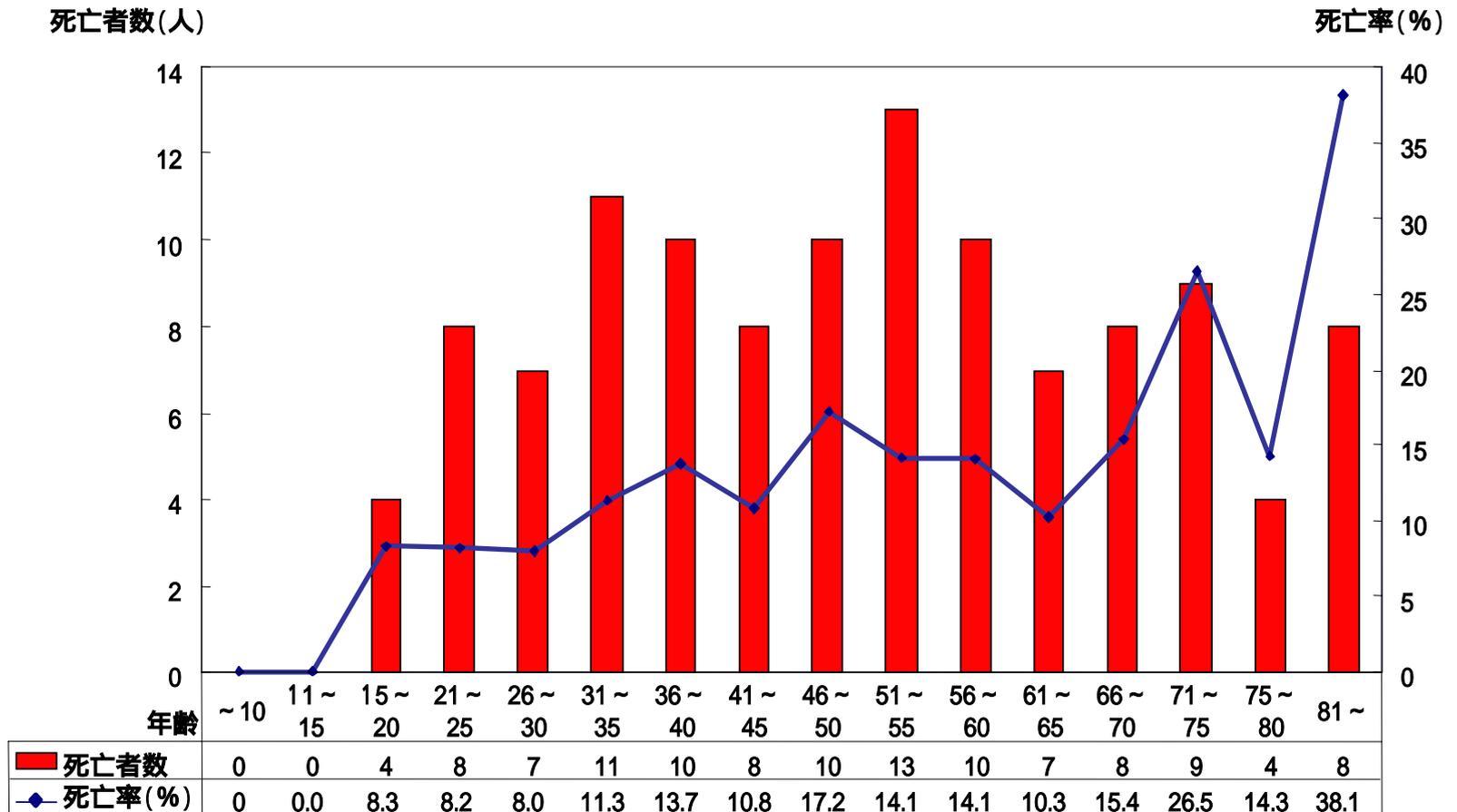


図27 四輪車における運転手の年齢別死亡者数および死亡率

死亡者数(人)

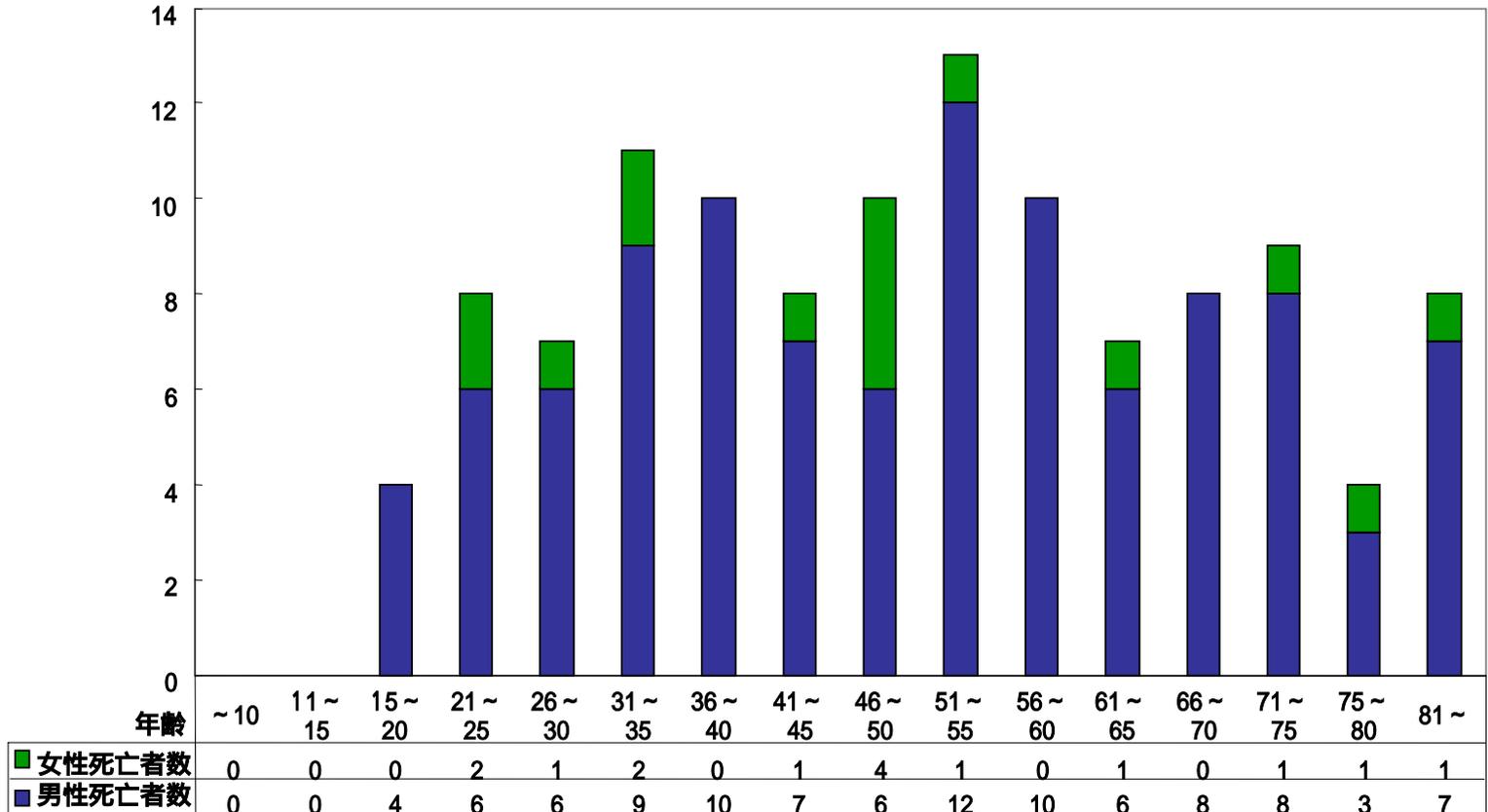
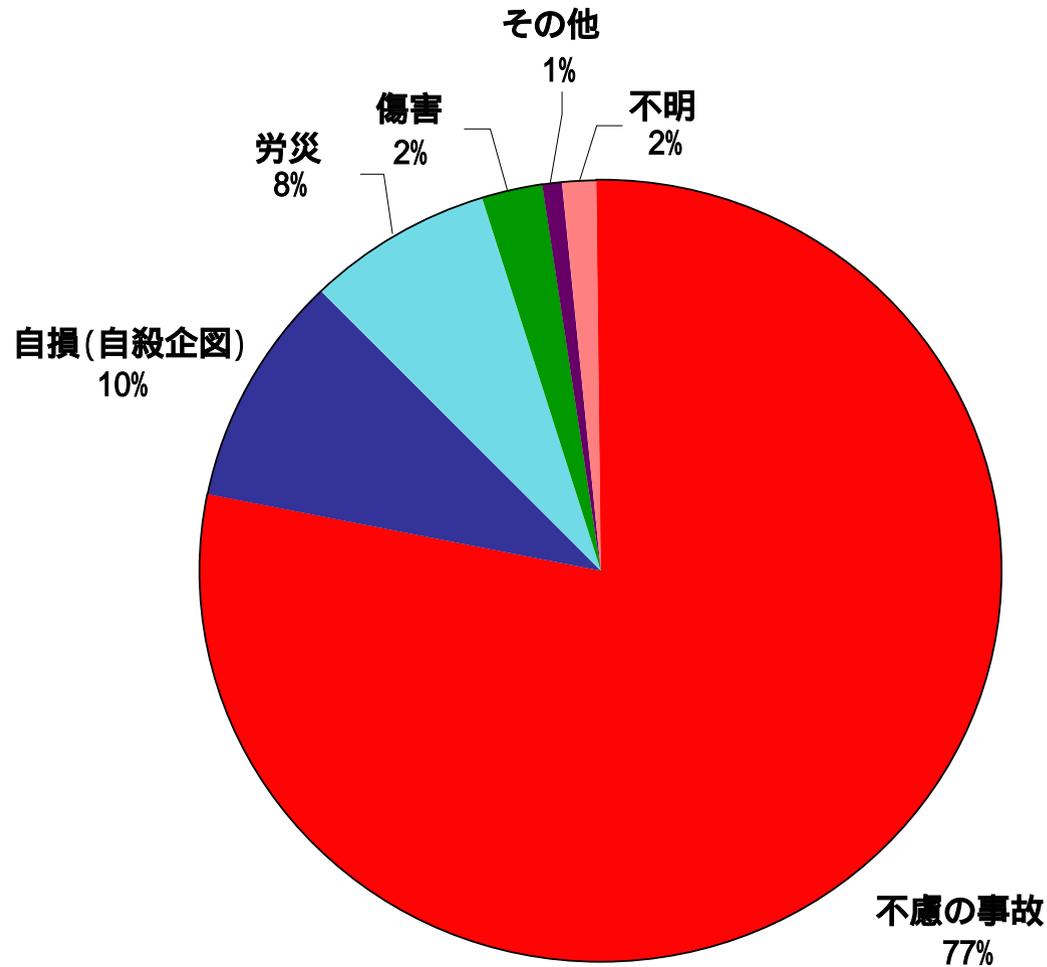
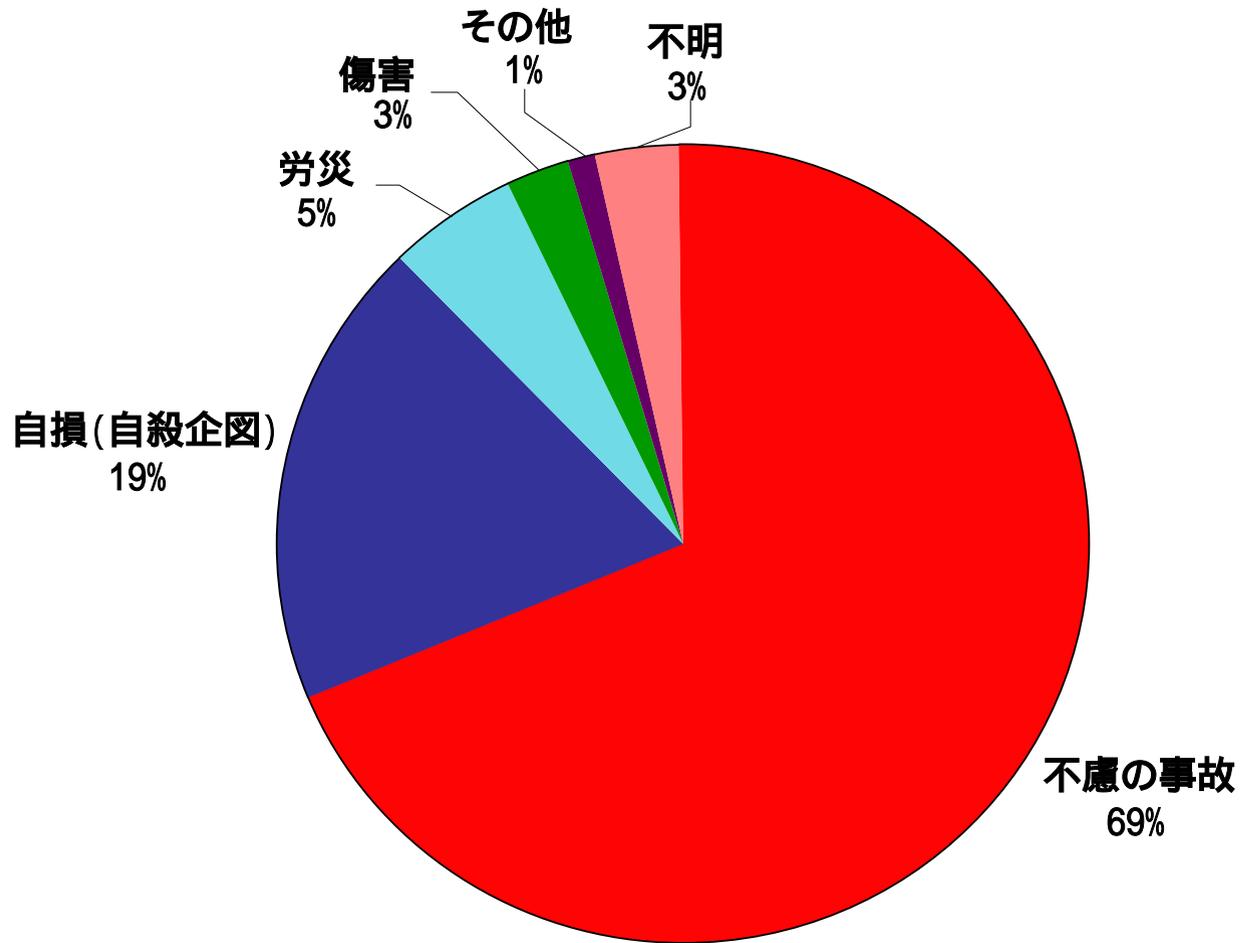


図28 性別および年齢別運転死亡者数



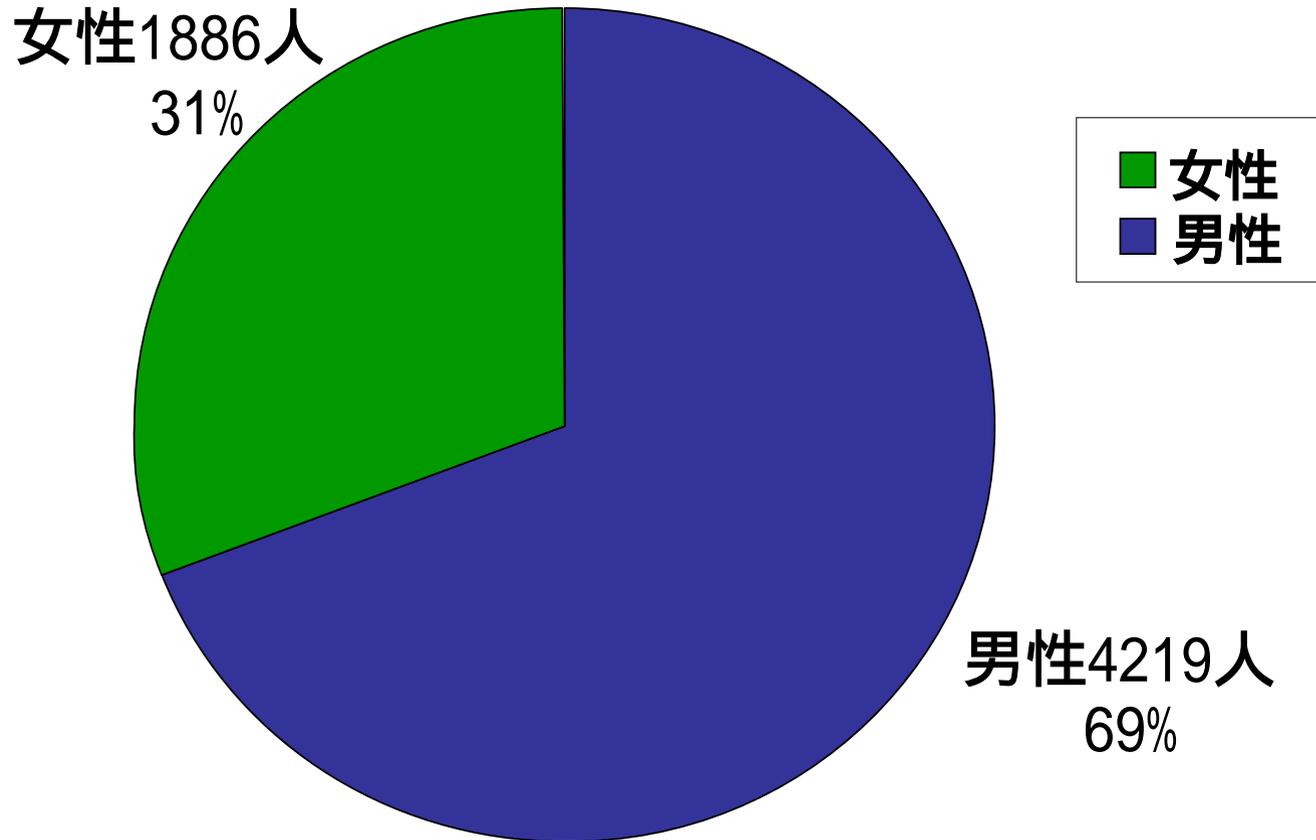
外傷原因としては不慮の事故が最も多く、全登録患者の77%(労災を併せると85%)を占めた。

図29 外傷原因別の登録患者比率



外傷原因別の死亡者比率としては不慮の事故が最も多く、69%(労災と併せると74%)を占めた。

図30 外傷原因別の死亡者比率



年齢不詳を除く。労働災害に関連した事故は含む。

図31 不慮の事故者における性別比率

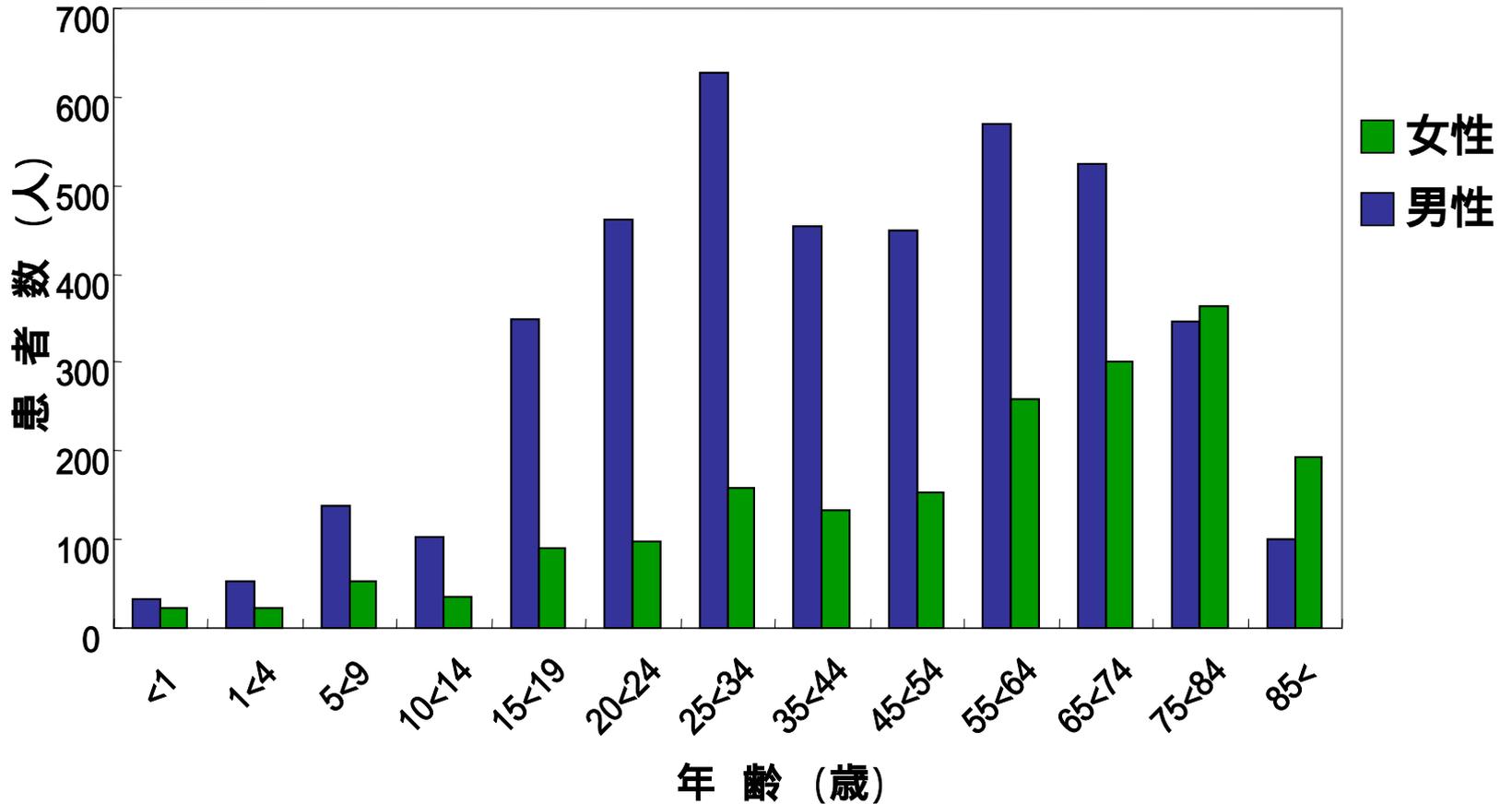


図32 不慮の事故者数の性別年齢分布

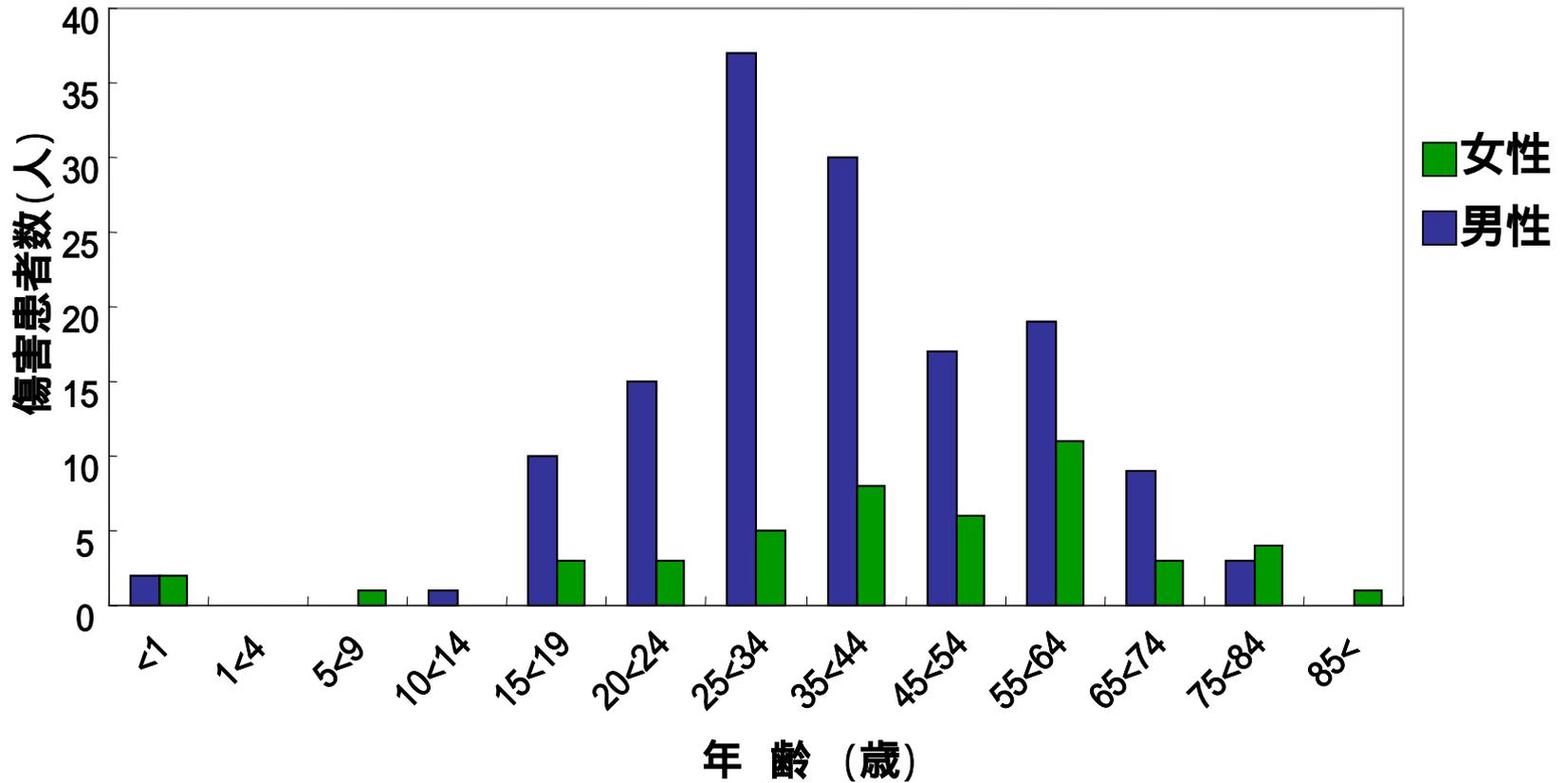
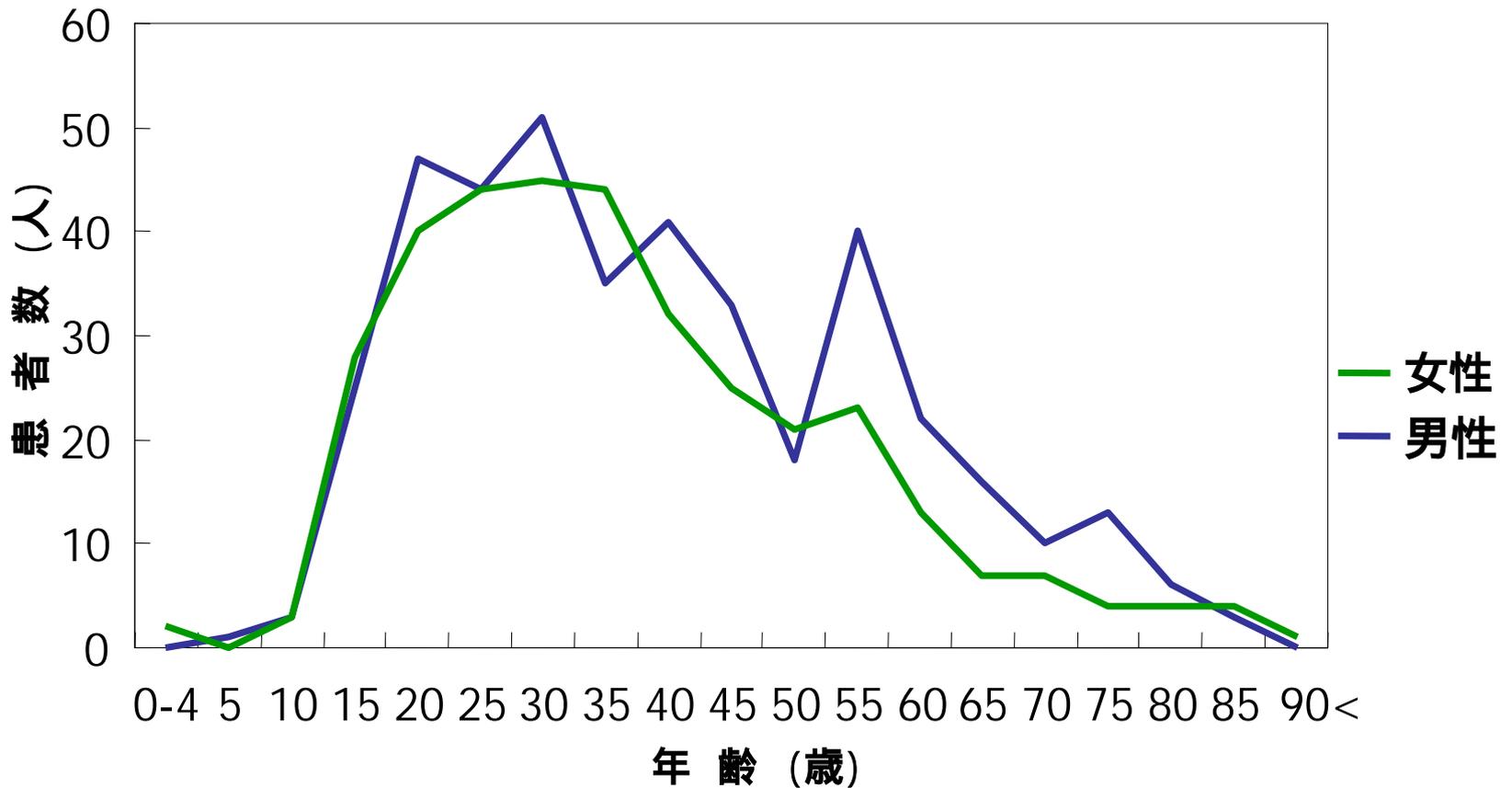
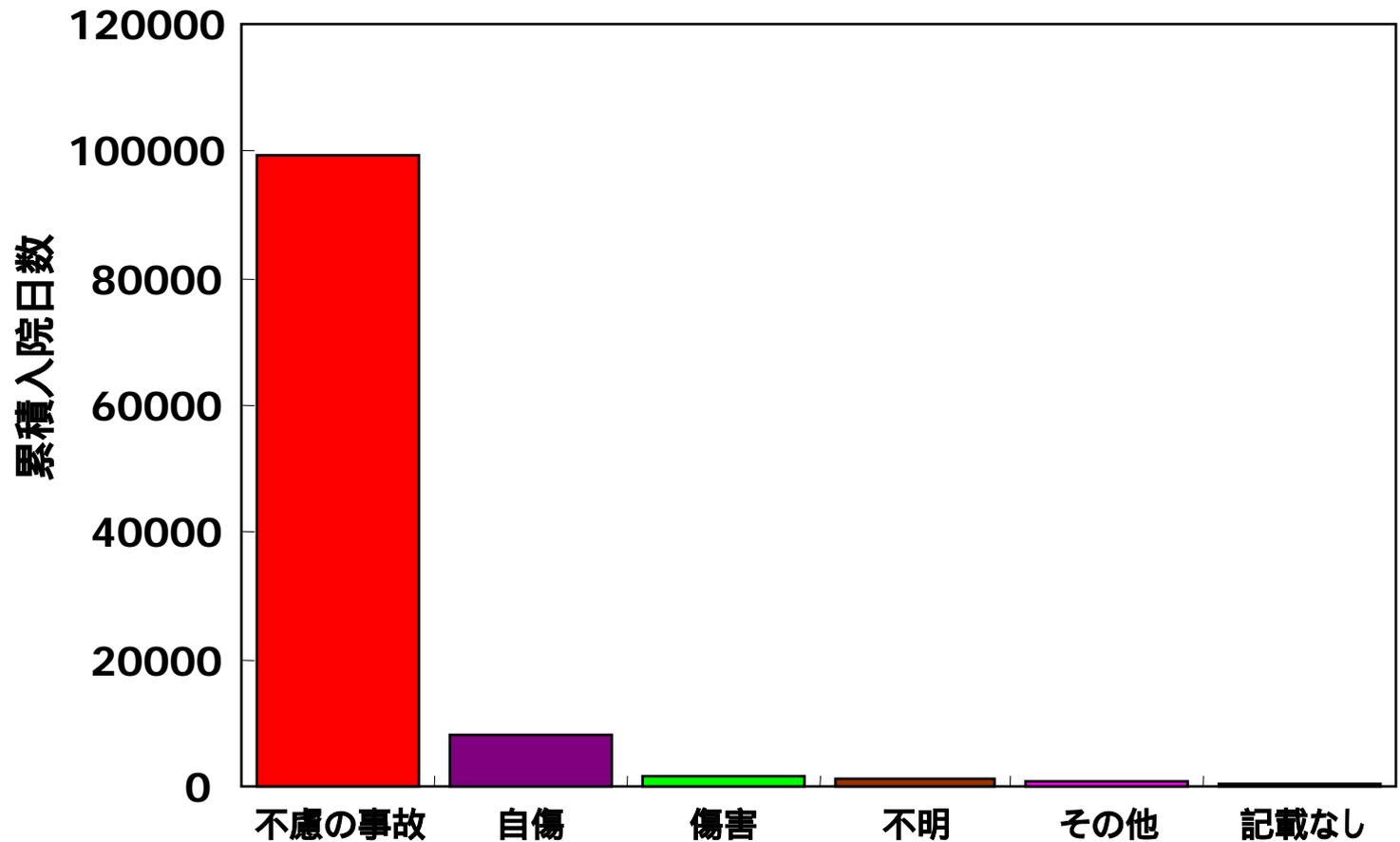


図33 性別及び年齢別の傷害患者数



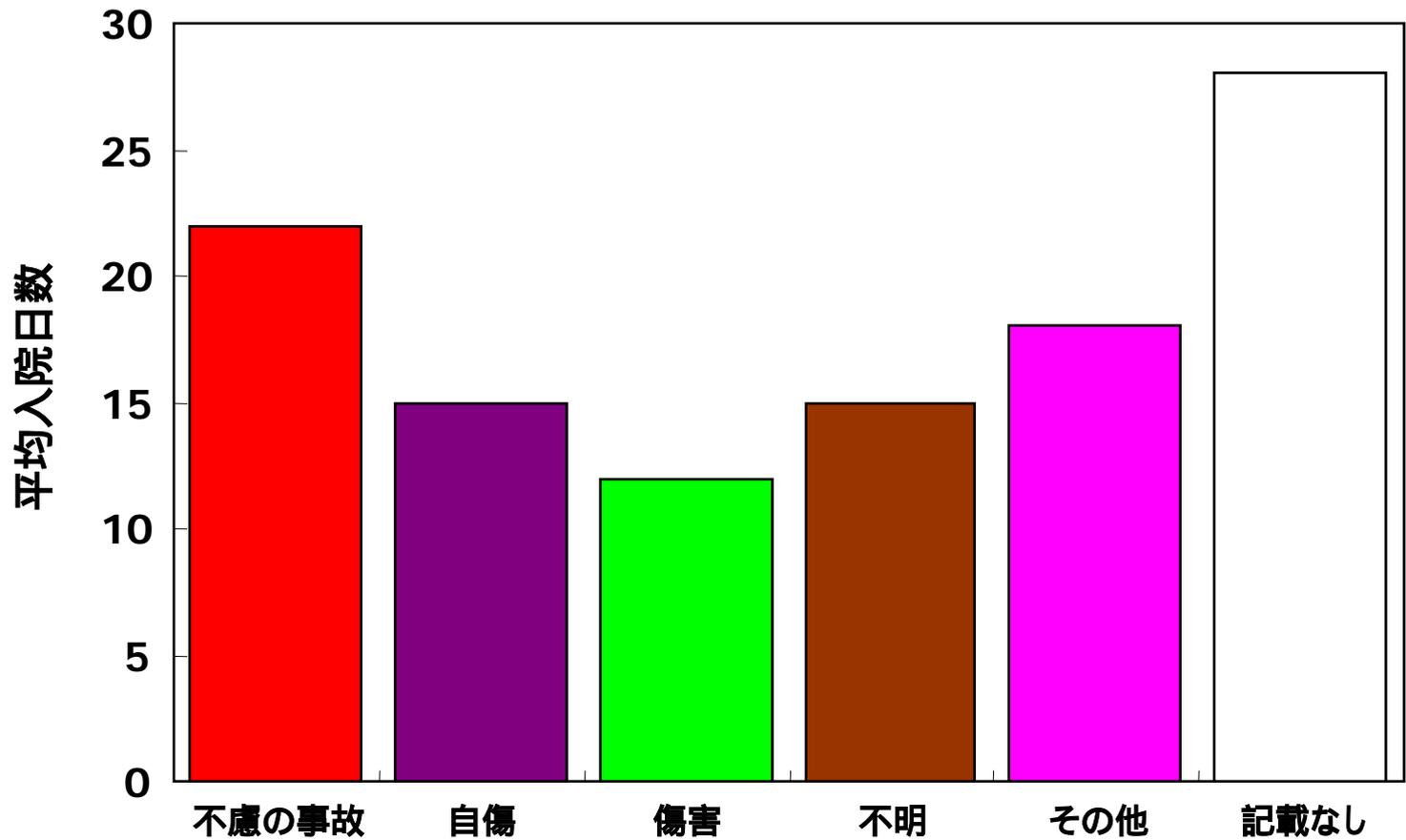
男性は二峰性分布、女性は20歳代、30歳代にピークを持つ。

図34 自傷による外傷患者の性別年齢分布



「記載なし」とは、外傷原因の記載がないものを指す。
不慮の事故には、労災も含まれる。

図35-A 外傷原因別の累積入院日数



不慮の事故には、労災も含まれる。

図35-B 外傷原因別の平均入院日数

日本外傷データバンク報告
(2004-2005)

JAPAN TRAUMA DATA BANK
REPORT 2004-2005

2006年10月26日



日本救急医学会 診療の質評価指標に関する委員会
理事 有賀 徹
委員長 坂本哲也



日本外傷学会 Trauma Registry検討委員会
理事 横田順一郎
委員長 小関一英

Task Force

小野寺謙吾
木村昭夫
齋藤大蔵
東平日出夫
林 宗貴
藤田 尚
三宅康史
森村尚登
山口芳裕
青木則明